

分野	括り	対象設備・作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月以降	備考			
				19	20	3	10	17	24	31	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中			下		
●原子炉建屋滞留水を2020年末の半分程度に低減(2022~2024年度)	建屋内滞留水	【1~4号機 滞留水移送装置】 (実績) ・1~4号機滞留水移送装置運転 (予定) ・1~4号機滞留水移送装置運転	現 場 作 業	1~4号機滞留水移送装置設置 運転																								(継続運転)	2号機 原子炉建屋滞留水水位低下(T.P.-2800目標) 実施中 (2021/10/12~) 110/28時点水位 約T.P.-2200 ※監視パラメータ異常なし
		【α核種除去設備検討】	設 計 ・ 検 討																									(2022年2月 設計完了予定)	
		【1~4号機 T/B床面スラッジ等の回収方法検討】	設 計 ・ 検 討																									(2023年度 設計完了予定)	
		【滞留水処理 代替タンク設計】	設 計 ・ 検 討																									(2022年3月 設計完了予定)	
		【プロセス主建屋・高温冷却建屋ゼオライト土壌の検討】	設 計 ・ 検 討																									(2023年度上期 設計完了予定)	プロセス主建屋の地下階掃き掃除実施 (2021/10~)
●汚染水発生量を100m3/日以下に抑制(2025年内)	浄化設備	【既設多核種除去設備】 【高性能多核種除去設備】 【増設多核種除去設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	現 場 作 業	処理運転(処理水の状況に応じて適宜運転または処理停止)																								(継続運転)	処理水及びタンクのインサービス状況に応じて適宜運転または処理停止 既設多核種除去設備 除去性能確認に係る実施計画変更申請 (2021/7/2、2021/10/14補正) 増設多核種除去設備 前処理設備改造に係る実施計画変更申請 (2021/7/27)
		【サブドレン浄化設備】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	現 場 作 業	処理運転																								(継続運転)	サブドレン汲み上げ、運用開始 (2015.9.3~) 排水開始 (2015.9.14~)
		【5/6号機サブドレンの復旧】 (実績) サブドレン設備復旧工事着手 (2020/9/7~) ・設備設置：約1900m ² 約1900m ・中継タンク設置：2/2基 ・ポンプ・水位計設置：0/13箇所 ・試験(各設備設置後)：一式(未実施)	現 場 作 業																									(2022年3月 運転開始予定)	2021年2月18日 5・6号機サブドレン排水設備復旧の実施計画変更認可(原規発第2102184号)
		【地下水バイパス設備】 (実績) (予定) ・運転 ・運転	現 場 作 業	運転																								(継続運転)	
		【セシウム吸着装置】 【第二セシウム吸着装置】 【第三セシウム吸着装置】 (実績) ・処理運転 (予定) ・処理運転	現 場 作 業	処理運転																								(継続運転)	2021年1月29日 吸着塔の第二セシウム吸着装置及び第三セシウム吸着装置での再利用の実施計画変更認可(原規発第2101291号) 使用前検査予定月：2021年11月(第三セシウム吸着装置、2・3号) 2021年12月(第二セシウム吸着装置、2・3号)
陸側遮水壁	(実績・予定) ・未凍結箇所補助工事は2018年9月に完了 ・維持管理運転2019年2月21日全環展開完了	現 場 作 業	維持管理運転(北側、南側の一部 2017/5/22~、海側の一部 2017/11/13~、海側全域・山側の一部 2018/3/14~、山側全域2019/2/21完了)																								(継続運転)		
フェーシング(陸側遮水壁内エリア)	【凍土壁内フェーシング(全6万m ²)】 (予定) 4号機タービン建屋東側	現 場 作 業	4号機タービン建屋東側																								(2022年2月 工事完了予定)	4号機タービン建屋東側：2021年4月7日開始	
3号機R/B燃料取出用カバー雨水対策(HPC)壁水位上昇対策)	(実績) ・2021年8月6日 仮設雨樋設置完了 (予定) ・2022年2月 雨樋本設完了予定	現 場 作 業	雨水排水先変更(サブドレンNo.34付近の地表面に排水)																										

汚染水対策スケジュール (2/2)

分野	括り	対象設備・作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	9月		10月					11月			12月			1月			2月			3月			4月以降	備考							
				19	20	3	10	17	24	31	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下									
●タンク関連		H4エリアNo. 5タンクからの漏えい対策	(実績・予定) ・汚染の拡散状況把握	現場作業	モニタリング																												(継続実施)	
		タンク解体	(実績・予定) ・Eエリアフランジタンク解体工事 ・49基解体予定	現場作業	Eエリアフランジタンク解体工事																												(2022年4月 工事完了予定)*	2018年9月10日 Eエリアにおける中低濃度タンクの撤去等について (実施計画変更認可)
		タンク設置	(実績・予定) ・G4北エリア溶接タンク設置工事 ・6基設置予定 ・G5エリア溶接タンク設置工事 ・17基設置予定	現場作業	G4北エリア溶接タンク設置工事 G5エリア溶接タンク設置工事																												(2022年8月* 工事完了予定) (2022年8月 工事完了予定)	※：残水回収中の2基を除く 実施計画変更申請中 2021年8月2日 福島第一原子力発電所 特定原子力施設に係る実施計画 変更認可申請書 (廃炉計画R3第68号) ※工程前倒しを検討中
●溜まり水対策		溜まり水対策	【構内溜まり水の除去】	現場作業																													(継続実施)	年1回、溜まり水の点検を実施
●自然災害対策		津波対策	○日本海津波対策 ・日本海津波対策防波堤設置 (実績・予定) 試験施工 本体構築工事	現場作業	現場調査・測量・試験施工本体構築工事																												(2024年3月 工事完了予定)	1-4号機側：2024年3月完了予定 現場着手：2021/06/21開始 テールアルメ工事：2021年9月14日作業開始 アッシュクリート打設：2021年10月15日作業開始
			○3.11津波対策 ・建屋開口部閉止 (実績) 閉止箇所数 123箇所/127箇所 (予定) 外部開口閉塞作業 継続実施	現場作業	【区分5】1~4Rw/B, 4R/B, 4T/B原専																												(2022年3月 工事完了予定)	【区分1②】1~3T/B等2019年3月、全67箇所完了 【区分3】2, 3R/B外部のハッチ等 (2019年3月~2020年3月、全20箇所完了) 【区分4】1~3R/B原専 (2019年9月~2020年11月、全16箇所完了) 【区分5】1~4Rw/B, 4R/B, 4T/B (2020年3月~2022年3月、20箇所/24箇所完了)
		○3.11津波対策 ・メガフロート移設【10/20時点】 (実績) 着床マウンド造成:100%、パラスト水処理:100% 内部除染作業:100% メガフロート移設・仮着床:100% 内部充填作業:100% 護岸ブロック製造:100% 据付:100% 裏込工:100% ブロック基礎敷置:100% 上部盛土工:100% 上部コンクリート工:80% 港域ヤード整備:1%	現場作業	護岸工事																												(2022年2月 工事完了予定)	着床マウンド造成：2019年5月20日開始、2020年2月7日完了 パラスト水処理：2019年5月28日開始、2020年2月20日完了 内部除染：2019年7月16日開始、2020年2月26日完了 メガフロート移設・仮着床：2020年3月4日完了 内部充填：2020年4月3日開始、8月3日完了 護岸ブロック据付：2020年10月2日開始、2021年2月4日完了 裏込工：2021年1月16日開始、2021年3月24日完了 ブロック基礎敷置：2021年3月25日開始、2021年6月8日完了 上部盛土工：2021年4月19日開始、2021年8月3日完了 上部コンクリート工：2021年6月16日開始、2021年10月29日完了目標 港域ヤード整備：2021年10月18日開始、2022年2月26日目標 ※2月13日の地震による影響を福島県と協議し、追加申請を実施予定。	
豪雨対策	○豪雨対策 ・D排水路新設 (実績) (10/20時点) 準備工事 完了 立坑構築工(両岸立坑部) 75% 立坑構築工(上流側到達立坑部) 80% 立坑構築工(下流側到達立坑部) 25% 立坑構築工(小口径推進部) 40% トンネル工(下流側機械掘進工) 45% 推進管据付(下流側) 71/284本 (約170m/約690m)	現場作業	立坑構築工事(両岸立坑部、下流側到達立坑部、上流側到達立坑部、小口径推進部) トンネル工事(下流側~2022.1)																												(2022年8月 工事完了予定) (2022年8月 工事完了予定)	準備工事(両岸立坑ヤード整備)：2021年2月25日開始 両岸立坑部：2021/03/06施工開始 下流側到達立坑部：2021/03/22準備開始、7月16日施工開始 上流側到達立坑部：2021/04/05施工開始 トンネル工事：2021/07/29開始、2021/09/06掘進作業開始、 2021/09/16初期掘進開始、2021/9/28本掘進開始		

水処理設備の運転状況、運転計画
(2021年10月15日～2021年11月18日)

2021年11月5日
東京電力ホールディングス株式会社

多核種除去設備

	15(金)	16(土)	17(日)	18(月)	19(火)	20(水)	21(木)	22(金)	23(土)	24(日)	25(月)	26(火)	27(水)	28(木)	29(金)	30(土)	31(日)	1(月)	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	7(日)	8(月)	9(火)	10(水)	11(木)	12(金)	13(土)	14(日)	15(月)	16(火)	17(水)	18(木)								
A	点検停止																																										
B	点検停止																											←															
C	点検停止				↔		点検停止																		↔		点検停止				←											点検停止	

増設多核種除去設備

	15(金)	16(土)	17(日)	18(月)	19(火)	20(水)	21(木)	22(金)	23(土)	24(日)	25(月)	26(火)	27(水)	28(木)	29(金)	30(土)	31(日)	1(月)	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	7(日)	8(月)	9(火)	10(水)	11(木)	12(金)	13(土)	14(日)	15(月)	16(火)	17(水)	18(木)
A	←		計画		←		計画		←				計画				←											計画		←				点検停止	
B	点検停止																																		
C	点検停止																																		

高性能多核種除去設備

	15(金)	16(土)	17(日)	18(月)	19(火)	20(水)	21(木)	22(金)	23(土)	24(日)	25(月)	26(火)	27(水)	28(木)	29(金)	30(土)	31(日)	1(月)	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	7(日)	8(月)	9(火)	10(水)	11(木)	12(金)	13(土)	14(日)	15(月)	16(火)	17(水)	18(木)			
A	計画停止																								↔				計画停止									

セシウム吸着装置(KURION)、第二セシウム吸着装置(SARRY)、第三セシウム吸着装置(SARRY2)

	15(金)	16(土)	17(日)	18(月)	19(火)	20(水)	21(木)	22(金)	23(土)	24(日)	25(月)	26(火)	27(水)	28(木)	29(金)	30(土)	31(日)	1(月)	2(火)	3(水)	4(木)	5(金)	6(土)	7(日)	8(月)	9(火)	10(水)	11(木)	12(金)	13(土)	14(日)	15(月)	16(火)	17(水)	18(木)					
SARRY	←																											計画停止											↔	
SARRY2	計画停止																																							
KURION	計画停止(滞留水の状況に応じて運転を計画、実施)																																							

※ 現場状況を踏まえて運転するため、計画を変更する場合があります。

福島第一原子力発電所の滞留水の水位について
(2021年10月15日～2021年11月4日)

2021年11月5日
東京電力ホールディングス株式会社

	原子炉建屋水位				タービン建屋水位				廃棄物処理建屋水位				集中廃棄物処理施設水位			
	1号機	2号機	3号機		4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	1号機	2号機	3号機	4号機	プロセス 主建屋	高温焼却炉 建屋	サイトバンカ 建屋
			HPCI室	トーラス室												
10月15日	-2036	-2194	-2017	-2043	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-122	31	2706
10月16日	-2051	-2219	-2019	-2048	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-168	32	2706
10月17日	-2031	-2200	-2021	-2043	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-226	31	2705
10月18日	-2045	-2180	-2022	-2050	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-272	32	2705
10月19日	-2042	-2219	-2024	-2047	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-299	86	2704
10月20日	-2031	-2221	-2026	-2040	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-363	87	2704
10月21日	-2035	-2205	-2028	-2045	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-340	88	2705
10月22日	-2037	-2201	-2029	-2047	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-350	106	2704
10月23日	-2039	-2207	-2029	-2045	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-407	124	2704
10月24日	-2041	-2215	-2031	-2047	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-472	126	2704
10月25日	-2046	-2210	-2033	-2047	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-542	125	2704
10月26日	-2038	-2184	-2031	-2045	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-603	125	2704
10月27日	-2032	-2305	-2010	-2048	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-596	135	2704
10月28日	-2041	-2270	-2012	-2047	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-630	135	2704
10月29日	-2056	-2298	-2014	-2045	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-662	135	2704
10月30日	-2032	-2280	-2015	-2047	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-726	136	2704
10月31日	-2031	-2294	-2017	-2050	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-788	135	2704
11月1日	-2034	-2324	-2019	-2047	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-845	134	2704
11月2日	-2036	-2312	-2021	-2019	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-824	135	2704
11月3日	-2039	-2291	-2022	-2050	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-832	168	2704
11月4日	-2048	-2305	-2024	-2050	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-885	169	2704
最下階床面高さ	-2666	-4796	-4796	-4796	443	-1752	-1737	-1739	-36	-1736	-1736	-1736	-2736	-2236	-	-

備考欄

※ T.P.表記(単位:mm)

※ 5時時点の水位

※ 1号機タービン建屋の滞留水処理完了(2017年3月)

※ 1号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2019年3月)

※ 3号機原子炉建屋水位は、南東三角コーナー水位が停滞している事から水位変動を監視するため一時的に記載(2019年7月5日～)

※ 4号機原子炉建屋の滞留水処理完了(2020年12月)

※ 2号機タービン建屋の滞留水処理完了(2020年12月)

※ 3号機タービン建屋の滞留水処理完了(2020年12月)

※ 4号機タービン建屋の滞留水処理完了(2020年12月)

※ 2号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2020年12月)

※ 3号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2020年12月)

※ 4号機廃棄物処理建屋の滞留水処理完了(2020年12月)

※ サイトバンカ建屋は過去に滞留水を誤って移送したことがあり、排水したものの現状も低レベルの汚染が残っていることから、水位を監視している。
なお、当該建屋内の水は1～4号機建屋及び集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋)内の建屋滞留水と切り離されており、放射能濃度も低いことから、建屋滞留水ではない。

各エリア別タンク一覧

1～4号機用汚染水貯蔵タンク

タンク基数、水位、貯蔵量、実容量集約日 2021年10月21日

エリア	基数	1基あたり容量(公等) (m3)	タンク型	貯蔵水	H水位 (mm)	H容量/基 =実容量/基 (m3)	0%以下 貯蔵量 (m3)	0%以上 貯蔵量(m3)	実容量 (m3)	水位管理				放射能濃度(Bq/cc)							測定時期	概略 使用開始時期
										水位(%) (最大値)	スロッシング 考慮(%)	HANN (%)	HHANN (%)	Cs-134	Cs-137	Co-60	Mn-54	Sb-125	Ru-106	Sr-90		
B	10	1330	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	13674	1297	約20	12888	12975	97.2	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.12	
	27	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	13272	682	約30	17735	18413	96.9	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.10	
B南	7	1330	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	13674	1297	約10	9026	9082	97.1	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.10	
C	26	40	鋼製角型タンク(溶接)	濃縮塩水	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク撤去移動(H30.10)							—	H23.6	
	52	40	鋼製角型タンク(溶接)	RO処理水(淡水)	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク撤去移動(H30.10)							—	H23.8	
D	19	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(C)	12936	1004	約210	8833	19078	61.2	95	88.7	90	1.4E+00	5.4E+00	8.2E-02	<1.9E-02	3.1E+00	<3.5E-01	4.4E+01	H27.3	H26.8
	12	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	RO処理水(淡水)	12936	1004	約140	8096	12049	88.5	95	88.7	90	タンクの分析は未実施							—	R1.11
E	26	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(A)	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク解体中							—	H24.8	
	18	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	Sr処理水等(C)	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク解体中							—		
	2	1000	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	濃縮塩水	9880	1054	約300	—	2109	2.3	95	96.3	98.9	2.7E+00	8.6E+00	3.0E+00	1.4E+00	3.7E+01	1.3E+01	3.8E+04		H27.2
G1	72	100	鋼製横置きタンク(溶接)※土中埋設	RO処理水(淡水)	—	—	—	—	—	—	—	—	タンク撤去移動(H31.2)							—	H24.8	
G1南	66	1356	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10796	1322	約160	87043	87244	97.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							R1.11	
	8	1160	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	11920	1130	約20	8995	9042	97.1	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.4	
G3東	15	1330	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	13664	1296	約30	19328	19442	97.0	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.4	
	24	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	9400	1069	約50	25381	25652	96.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H25.4	
G3西	39	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設) ※1.2	9400	1012	約20	7301	39466	91.6	100	92.5	93.8	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H25.10	
G3北	6	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設) ※2	9400	1069	約10	6374	6413	97.1	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							R2.3	
G4南	26	1356	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10796	1322	約60	34347	34369	97.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							R2.3	
G6	38	1330	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	13674	1297	約70	48962	49303	97.1	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H31.4	
G7	10	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	13415	690	約10	6686	6898	94.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H26.12	
H1	63	1220	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	10539	1190	約140	74344	74969	97.0	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H27.3	
H1東	24	1220	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10539	1190	約50	27624	28560	94.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.4	
H2	44	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	11330	2331	約180	101388	102569	97.6	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.10	
H3	10	1356	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	10796	1322	約20	13205	13219	97.6	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.11	
H4北	35	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10366	1169	約80	40639	40931	97.1	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H29.7	
H4南	13	1060	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	13190	1034	約20	13410	13424	97.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H29.12	
	38	1140	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	13010	1112	約70	42000	42249	97.5	100	97.7	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.4	
H6	32	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	10368	1169	約70	37101	37423	97.0	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.9	
H6(I)	11	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10368	1169	約20	12808	12864	97.6	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.8	
H6(II)	24	1356	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10796	1322	約60	31560	31725	97.4	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H30.12	
H8北	5	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(C)	9477	1069	約10	4059	5344	74.2	100	97.7	99	1.3E-01	5.7E-01	2.7E-01	3.6E-02	6.4E+00	—	2.2E+02	H27.3	H25.4
H8南	8	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水 ※2	9477	1069	約0	0	8551	0.0	100	97.7	99	タンクの分析は未実施							—	未使用
	3	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	Sr処理水等(R)	9477	1069	約10	766	3207	70.0	100	97.7	99	<5.1E-02	1.2E-01	2.1E-01	2.0E-02	3.8E+00	2.9E-01	9.1E+01	H27.3	H25.4
J1	98	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設) ※1.2	9477	1069	約200	91454	104746	96.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H26.1	
	2	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水 (高性能検証試験装置)	9477	1069	約0	1045	2138	95.5	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}								
J2	42	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	12151	2500	約170	103528	104999	96.1	99	97.2	98.5	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H26.9	
J3	22	2400	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	12101	2490	約90	54300	54773	96.4	99	96.8	98.1	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H26.10	
J4	30	2900	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	12604	2829	約130	84699	84882	98.0	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H26.10	
	5	1160	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	11926	1131	約10	5651	5657	97.6	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.2	
J5	35	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	12001	1137	約70	39539	39789	92.0	94	92.2	93.5	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H26.8	
J6	38	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10366	1169	約90	44169	44431	97.1	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H26.12	
J7	42	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設・高性能)	10366	1169	約100	48846	49108	97.4	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H27.9	
J8	9	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設)	10747	682	約10	6127	6138	97.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.4	
J9	12	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	10747	682	約20	8175	8183	97.7	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.11	
K1北	12	1200	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(高性能)	10366	1169	約30	13757	14031	96.1	99	97.6	98.9	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H27.1	
K1南	10	1160	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設) ※2	11926	1131	約20	10834	11314	93.6	100	97.7	99	タンクの分析は未実施							R3.7	
K2	28	1057	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設) ※2	12780	1032	約40	27586	28888	97.0	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.7	
K3	12	700	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	13280	683	約10	8141	8195	97.1	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.4	
K4	35	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(既設・増設)	12410	972	約50	33805	34024	97.2	100	97.7	99	添付「タンク群毎の放射能濃度実測値」参照 ^{※3}							H28.8	
多核種除去設備	4	1100	鋼製円筒型タンク(フランジ接合)	多核種除去設備 処理済水(既設)	9750	1103	約0	725	4411	28.2	100	97.5	99	— ※4							H25.3	
高性能多核種 除去設備	3	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(高性能)	12630	1199	約0	3436	3598	98.3	100	98.4	99.6	—							H26.10	
増設多核種除去設備	3	1235	鋼製円筒型タンク(溶接)	多核種除去設備 処理済水(増設)	12630	1199	約0	897	3598	62.2	100	98.4	99.6	—							H26.9	

D	10	1000	鋼製円筒型タンク(溶接)	濃縮廃液	12936	1002	約120	9079	10041	80.2	95	88.7	90	タンクの分析は未実施							H26.8
H2	3	100	鋼製横置きタンク(溶接)	濃縮廃液	—	—	—	178	281	89.6	—	93	96.5	タンクの分析は未実施							H23.8

赤字はアウトオブサービス済の基数

※実容量には、タンク底部から水位計0%の水量(DS分)を含まない。

下線部は今回の変更箇所

※1 濃縮塩水/Sr処理水等を貯留した実績あり(G3西及びJ1の一部)

※2 Sr処理水等を貯留した実績のあるタンクを再利用したものを含む。再利用した基数 G3西:30、G3北:6、H8南:8、J1:8、K1南:10、K2:26

※3 多核種除去設備処理済水(ALPS処理水等)の放射能濃度について、当社「処理水ポータルサイト」に掲載のデータ参照(3ヶ月毎にデータ更新)

※4 多核種除去設備、高性能多核種除去設備、増設多核種除去設備のサンプルタンクは貯留用タンクではなく水の入れ替わりがあることから、分析対象外とする。

処理水ポータルサイトのURLは以下です。4ページ中段にある『貯蔵タンクエリア毎の放射能濃度を詳しくみる』をクリックすると、分析結果が表示されます。

<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/>

汚染水等構内溜まり水の状況 (2021.10.21時点)

資料3

リスク観点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考	
1	2号機大物搬入口屋上	・2号機大物搬入口屋上	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【2階】 Cs-134: <1.0E1 Cs-137: 2.1E1 全β: 2.6E1 H-3: 1.0E2 (2015.11.2) 【1階】 Cs-134: 1.1E1 Cs-137: 4.0E1 全β: 4.1E1 H-3: 1.1E2 (2015.11.2)		
1-2	2号機R/B	2号機R/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【上屋】 Cs-134: 200~340 Cs-137: 650~1100 全β: 920~1900 Sr-90: 10~20 ND(<100) H-3: (2015.1.16)		
2	5.6号機貯留タンク(フランジタンク)	・5.6号機貯留タンク(フランジタンク)	6号機北側	約8,900 (2021.9時点)	Cs-134: 2.3E0 Cs-137: 6.3E1 (2021.8.18)	2.0E0 6.2E1 (2021.9.15)	5-6号建屋滞留水・RO処理水を貯留
3	5.6号機貯留タンク(溶接タンク)	・5.6号機貯留タンク(溶接タンク)	6号機北側	約6,300 (2021.9時点)	Cs-134: 7.7 Cs-137: 4.3E1 (2016.10.3)		5-6号建屋滞留水を貯留
4-2	吸着塔一時保管施設	水処理二次廃棄物(SARRY、KURION、ALPS処理カラム、モバイル式処理装置)	吸着塔一時保管施設(第一施設、第四施設)	1程度(1基あたり)	Cs-137: 2.0E3~1.6E7 Sr-90: 5.3E3~4.3E7 (2017.2~2017.3)		
7	濃縮水タンク(蒸発濃縮装置濃廃水)	蒸発濃縮装置濃縮水用ノッチタンク(スラリー/濃縮水)	タンクエリア(Cエリア)	約65※1 (2019.2.1時点)	【蒸発濃縮装置濃廃水】 Cs-134: 1.7E4 Cs-137: 2.5E4 全β: 4.7E8 (2011.12.20)	蒸発濃縮装置濃縮水を貯留 ※1: 全5タンクの水量を 実測して算出	
9	5、6号機逆洗弁ピット及び吐出弁ピット	・5号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	5号機スクリーン近傍	約550	Cs-134: ND Cs-137: 3.4E0 (2016.10.5)		
		・6号機ポンプ室循環水ポンプ吐出弁ピット	6号機スクリーン近傍	約850	Cs-134: ND Cs-137: 3.7E0 (2016.10.5)		
		・5号機逆洗弁ピット	5号タービン建屋海側	約1,500	Cs-134: 3.0E0 Cs-137: 1.9E1 (2016.10.3)		
		・6号機逆洗弁ピット	6号タービン建屋海側	約1,500	Cs-134: 1.5E0 Cs-137: 1.1E1 (2016.10.3)		
10	1~4号機T/B屋根	・1号機T/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【1号機T/B上屋】 Cs-134: ND Cs-137: 8.4E1 (2021.8.26) 全β: 4.4E1 (2020.7.29)	2.1E1 6.2E2 (2021.9.21)	
		・2号機T/B	建屋エリアに存在する建屋	降雨量により変動	【2号機T/B上屋】 Cs-134: ND Cs-137: 9.3E1 (2021.8.26) 全β: 8.9E0 (2020.7.29)	ND 4.7E1 (2021.9.21)	
11	1号CSTタンク(溶接タンク)	・1号CSTタンク(溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約740 (2016.10.26)	Cs-134: 2.9E+4 Cs-137: 1.9E+5 全β: 2.2E+5 (2016.11.7)	RO処理水を貯留	

汚染水等構内溜まり水の状況 (2021.10.21時点)

資料3

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
12	2号CSTタンク (溶接タンク)	・2号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1,900 (2021.9.15)	【CST入口水(淡水化装置出口水)】 H-3: 2.3E5 1.5E5 Sr-90: ND ND (2021.7.2) (2021.9.7) 【2号CSTタンク貯留水】 Cs-134: 1.6E+02 Cs-137: 1.7E+03 (2018.12.14) 全β: 1.5E+03 (2018.12.19)	2020.3.18より1~3号機炉注水源としての運用開始
13	3号CSTタンク (溶接タンク)	・3号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1,970 (2021.9.15)	【3号CSTタンク貯留水】 Cs-134: 1.9E+2 Cs-137: 3.5E+3 全β: 6.3E+3 H-3: 7.5E+5 (2020.7.16)	RO処理水を貯留 1~3号機炉注水源
15	地下貯水槽	地下貯水槽No. 1	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 1.3E6 (2018.9.12) (参考:漏えい検知孔水) 全β: 8.4E3 9.3E3 (2021.8.17) (2021.10.5) H-3: ND (2019.9.4)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
16	地下貯水槽	地下貯水槽No. 2	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.1E6 (2018.9.12) (参考:漏えい検知孔水) 全β: 1.5E4 7.3E3 (2021.8.18) (2021.10.6) H-3: ND (2019.9.4)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
17	地下貯水槽	地下貯水槽No. 3	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 3.2E6 (2018.9.11) (参考:漏えい検知孔水) 全β: 2.1E4 9.7E3 (2021.8.20) (2021.10.8) H-3: ND (2019.9.5)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
18	地下貯水槽	地下貯水槽No. 4	タンクエリア	—	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 2.8E4 (2018.9.12)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
20	地下貯水槽	地下貯水槽No. 6	タンクエリア	—	【RO濃縮水貯水実績あり】 全β: 7.8E6 (2018.9.11) (参考:漏えい検知孔水) 全β: 4.5E1 (2019.9.5) H-3: ND (2019.9.5)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
21	地下貯水槽	地下貯水槽No. 7	タンクエリア	—	【タンク堰内雨水貯水実績あり】 全β: 1.5E2 (2018.9.12)	水位計の計測限界水深未満(一部残水あり) (2018.9.26時点)
22	1-4号建屋接続トレンチ	・1号機コントロールケーブルダクト ・集中環境施設廃棄物系共通配管ダクト(2号機廃棄物系共通配管ダクト) ・1号機薬品タンク連絡ダクト 等	1~4号機周辺	約4~170 (2020.12)	Cs-134: ND~3.2E2 Cs-137: 9.6E1~7.6E3 全β: 9.6E1~8.0E3 H-3: 1.0E2~6.5E3 (2020.12)	量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(1)「2020年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照
23	2~4号機DG連絡ダクト	・2~4号機DG連絡ダクト	2~4号機山側	約1,600 (2020.12)	Cs-134: ND Cs-137: 8.7E1 全β: 1.0E2 H-3: ND (2020.12.18)	
24-1	1号機海水配管トレンチ	・1号機海水配管トレンチ	1号機タービン建屋海側	約400 (2020.12)	Cs-134: ND Cs-137: 4.8E1 全β: 7.3E1 (2020.12.21)	
26	3号機起動用変圧器ケーブルダクト	・3号機起動用変圧器ケーブルダクト	3号機山側	約830 (2020.12)	Cs-134: 4.8E1 Cs-137: 4.0E2 全β: 4.4E2 H-3: ND (2017.10)	

汚染水等構内溜まり水の状況 (2021.10.21時点)

資料3

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考
28	1-4号建屋未接続トレンチ	・2号機変圧器防災用トレンチ ・消火配管トレンチ(3号機東側) ・1号機主変圧器ケーブルダクト ・1号機廃液サージタンク連絡ダクト ・1号機オフガス配管ダクト 等	1-4号機周辺	約1~830 (2018.12)	Cs-134:ND~2.3E1 Cs-137:7.0E0~2.7E2 全β:5.4E1~7.2E2 H-3:ND~1.7E3 (2018.11~2019.1)	量及び放射性物質濃度の内訳は添付資料(2)「2018年度トレンチ等内溜まり水調査結果一覧」を参照
29	1~4号機サブドレン No.15,16(未復旧ビット)	・サブドレンビットNo.15,16	1~4号機周辺 「未復旧」	約20	【No.16】 Cs-134: 1.3E4 3.1E4 Cs-137: 3.7E5 8.8E5 全β: 4.0E5 1.1E6 H-3: 1.0E4 8.3E3 (2021.7.23) (2021.9.10)	
30	その他1~4号機サブドレン(ディーブウェル含む)(未復旧ビット)	・1号機~4号機サブドレン	1~4号機周辺 「未復旧」	約15/ビット	【No.47.48】 Cs-134:ND~3.9E1 Cs-137:4.8E1~9.6E1 全β:7.9E1~2.8E2 H-3:ND (2014.11.10)	
32	1号機放水路 (出口を閉塞済)	・1号機放水路 (出口を閉塞済)	1~4号タービン建屋海側	約4,200 (2018.12.17)	【放水路上流側立坑】 Cs-134: 1.5E2 1.3E2 Cs-137: 4.2E3 2.9E3 全β: 5.3E3 3.4E3 H-3: ND ND (2021.9.20) (2021.10.18)	
33	2号機放水路 (出口を閉塞済)	・2号機放水路 (出口を閉塞済)	2~4号機タービン建屋海側	約3,600 (2018.12.14)	【放水路上流側立坑】 Cs-134: 2.6E1 3.9E1 Cs-137: 8.3E2 9.4E2 全β: 1.1E3 1.2E3 H-3: ND ND (2021.9.20) (2021.10.18)	
34	3号機放水路 (出口を閉塞済)	・3号機放水路 (出口を閉塞済)	3~4号機タービン建屋海側	約1,600 (2018.12.17)	Cs-134: 2.1E1 2.8E1 Cs-137: 4.9E2 5.4E2 全β: 6.3E2 5.8E2 H-3: 1.3E2 ND (2021.8.11) (2021.9.8)	
35	キャスク保管建屋	・キャスク保管建屋	物揚場 西側	約4,500	Cs-134: 7.2E0 Cs-137: 2.3E1 I-131: ND Co-60: ND 全γ放射能: 3.1E1 全β放射能: (2014.5.23)	
36	5号CSTタンク (溶接タンク)	・5号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1040 (2021.9.27)	Cs-134: ND ND Cs-137: ND ND Co-60: 1.7E2 1.9E2 (2021.8.16) (2021.9.13)	プラント保有水を貯留
37	6号CSTタンク (溶接タンク)	・6号CSTタンク (溶接タンク)	屋外(建屋エリア)	約1620 (2021.9.27)	Cs-134: ND ND Cs-137: ND ND Co-60: 1.6E1 ND (2021.8.17) (2021.9.14)	プラント保有水を貯留
38	5/6号他 トレンチ	・5号機海水配管トレンチ ・5・6号機スチームドレン配管トレンチ ・5号機重油配管トレンチ(東側) ・5号機放射性流体用配管ダクト ・5号機主変圧器ケーブルダクト 等	5~6号機周辺	約1~1,900 (2015.10~2016.1)	Cs-134:ND~2.2E2 Cs-137:ND~9.9E2 (2015.10~2016.1)	
39	5, 6号機サブドレン	・5,6号機サブドレンビット	5~6号機周辺 ※「復旧対象」	約15/ビット	Cs-134: ND Cs-137: ND~3.5 全β: ND~4.8 H-3: ND~140 (採水期間:2017.10~2018.3) <各ビット混合水> Cs-134: ND Cs-137: 4.3E-1 全β: ND H-3: 4.0E0 (2020.1.28)	
40	キャスク保管建屋サブドレン	・キャスク保管建屋サブドレン	物揚場 西側	約15/ビット	Cs-134: 1.0E+1 Cs-137: 1.4E+1 Co-60: <6.0E-01 全γ放射能: 2.4E+1 (2012.1.18)	

汚染水等構内溜まり水の状況 (2021.10.21時点)

資料3

リスク総点検より抜粋・改訂

No.	箇所	対象	場所	量(m ³)	放射性物質濃度[Bq/L]	備考	
41	SPTタンク(1~4号)(A) (溶接タンク)	・SPTタンク(1~4号)(A) (溶接タンク)	SPT建屋	約2,800 (2015.3.25時点)	Cs-134: 8.0E+4 Cs-137: 1.6E+5 Co-60: 6.5E+2 (2013.8.27)	プラント保有水等を貯留	
42	集中ラド周りサブドレン	・集中ラド周りサブドレン	主プロセス建屋等 各建屋周辺	約15/ピット	Cs-134: ND Cs-137: ND~5.2E1 (2021.9.22)	ND ND~ 5.5E1 (2021.10.20)	
44	純水タンクNo.1	・純水タンク	屋外(建屋エリア)	約850	Cs-134: 2.1 Cs-137: 7.2 全β: 12.2 H-3: ND (2015.5.29)	震災後、坂下ダム補給水を貯留	
45	5/6号機建屋滞留水	・5/6号機建屋滞留水	5~6号機	約8,900 (2021.9時点)	【5号機】 Cs-134: ND Cs-137: 7.6E-1 全β: ND H-3: ND (2021.8.19)	ND 1.0E0 ND ND (2021.8.16)	
					【6号機】 Cs-134: ND Cs-137: 2.4E0 全β: ND H-3: ND (2021.8.20)	ND 2.0E0 ND ND (2021.8.17)	
46	排気筒ドレンサンピット	・1/2号排気筒ドレンサンピット	1~4号機周辺	約0.3 [*] <small>※適宜溜まり水の移送を実施</small>	Cs-134: 4.8E4 Cs-137: 1.2E6 全β: 1.2E6 (2021.7.29)	1.3E5 3.8E6 3.8E6 (2021.8.31)	2019.10.12以降、水位低下傾向が確認された。 (2019.11.27)
		・3/4号排気筒ドレンサンピット	1~4号機周辺	約2	Cs-134: 9.5E1 Cs-137: 1.8E3 全β: 2.3E3 (2020.12.23)		
		・5/6号排気筒ドレンサンピット	5/6号機周辺	約7.6 (2020.3.12)	Cs-134: ND Cs-137: 1.3E1 全β: 1.2E1 (2021.2.18)		
		・集中RW排気筒ドレンサンピット	1~4号機周辺	約10	Cs-134: ND Cs-137: 2.2E2 全β: 2.7E2 (2020.5.20)		
47	固体廃棄物貯蔵庫(6~8号棟)	固体廃棄物貯蔵庫(6~8号棟)	固体廃棄物貯蔵庫 (6~8号棟)	約200	Cs-134: ND Cs-137: 5.3E+1 全β: 4.8E+1 (2017.11.10)		
49	5号R/B西側ヤードドラム缶	ステンレス製ドラム缶(内袋付)	5号R/B西側 ヤード (水素ガストレー ラーエリア)	約13 (2019.12) 約10 (2021.10)	Cs-134: ND Cs-137: 1.4E+1 Sr-90: ND H-3: ND 全β: 1.1E+01 Co-60: ND (2019.5.29)		

建屋内における残水等の状況について

No.	号機	建屋	対象エリア	区分	区分の判断日※1	運用目標値／基準値(mm)	測定頻度	今回			1回前			2回前			最終排水実績	排水計画	床面(mm)	水位計の有無	水位調整不可能予定時期	備考
								確認日	水位	1回前との水位差(mm)	確認日	水位	2回前との水位差(mm)	確認日	水位	3回前との水位差(mm)						
1		T/B	電気マンホールNo.1	排水完了エリア	2017/7/5	T.P. 3.023	1回/月	2021/10/4	測定下限値以下	-	2021/9/6	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	2019/10/28	-	T.P. 1.743	無	完了済	大雨警報発報時に、マンホール上部に水たまりや流入経路は目視にて確認できなかった。
			電気マンホールNo.2	排水完了エリア	2017/7/5	T.P. 2.293	1回/月	2021/10/4	T.P. 1.793	0	2021/9/6	T.P. 1.793	0	2021/8/16	T.P. 1.793	0	2020/10/30	-	T.P. 1.743	無	完了済	大雨警報発報時に、マンホール上部に水たまりや流入経路は目視にて確認できなかった。
2		T/B	主油タンク室	排水完了エリア	2017/7/5	T.P. 3.463	1回/月	2021/10/4	測定下限値以下	-	2021/9/6	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 3.443	無	完了済	
3		T/B	復水脱塩装置樹脂貯蔵タンク室	排水完了エリア	2017/7/27	T.P. 2.063	1回/3ヶ月	2021/8/16	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	2021/7/28	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 2.043	無	完了済	
4		T/B	ハウスボイラ室	排水完了エリア	2017/7/11	T.P. 2.250	1回/月	2021/10/4	測定下限値以下	-	2021/9/6	測定下限値以下	-160	2021/9/14	T.P. 1.103	10	2021/9/7	-	T.P. 943	有(露出)	完了済	
5		T/B	ディーゼル発電機(B)室	排水完了エリア	2017/7/19	T.P. 1.926	1回/月	2021/10/4	測定下限値以下	-	2021/9/15	測定下限値以下	-160	2021/9/14	T.P. 703	-130	2021/9/15	-	T.P. 543	有(露出)	完了済	
6		T/B	床ドレンサンブ	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	1回/日	2021/10/7	T.P. -768	-	2021/9/9	T.P. -721	-	2021/8/6	T.P. -522	-	-	-	-	有	完了済	
7		T/B	機器ドレンサンブ	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済	
8		T/B	復水ポンプ配管トレンチ	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	1回/日	2021/10/7	T.P. -17	-	2021/9/9	T.P. 4	-	2021/8/6	T.P. -3	-	-	-	T.P. -857	有	完了済	水位は仮設水位計にて計測
9		T/B	復水ポンプピット(A)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済	
		T/B	復水ポンプピット(B)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済	
		T/B	復水ポンプピット(C)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済	
10		T/B	給水加熱器ドレンポンピット(A)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済	
		T/B	給水加熱器ドレンポンピット(B)	床面以下に貯留する残水	2018/7/24	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済	
11		Rw/B	LDT室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/4	測定下限値以下	-	2021/9/6	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	-	-	T.P. -36	有(露出)	完了済	
12		Rw/B	FSST室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/18	T.P. 54	0	2021/10/11	T.P. 54	0	2021/10/4	T.P. 54	70	2021/9/8	-	T.P. -36	有(露出)	完了済	
13		Rw/B	OGST室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/4	測定下限値以下	-	2021/9/6	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	-	-	T.P. -36	有(露出)	完了済	
14		Rw/B	床ドレンサンブ(A)	床面以下に貯留する残水	2019/4/22	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済	
15		Rw/B	床ドレンサンブ(B)	床面以下に貯留する残水	2019/4/22	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済	
16		Rw/B	高電導度廃液サンブ	床面以下に貯留する残水	2019/4/22	-	1回/日	-	測定困難※3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	無	完了済	
17		2号機	低圧復水ポンプエリア	建屋貯留水	-	-	-	2021/10/7	T.P. -1,626 mm※4	-	2021/9/9	T.P. -1,626 mm※4	-	2021/8/6	T.P. -1,626 mm※4	-	-	-	T.P. -1,752	無	-	復水器エリアと連通性有※2
18		2号機	C/B(バッテリー室)	排水完了エリア	2018/1/31	T.P. 1.599	1回/月	2021/10/5	測定下限値以下	-	2021/9/7	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	2018/1/26	-	T.P. 448	無	完了済	
19		2号機	C/B(電気品室)	排水完了エリア	2018/1/18	T.P. 1.644	1回/月	2021/10/5	測定下限値以下	-	2021/9/7	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	2018/1/15	-	T.P. 448	有(露出)	完了済	
20		2号機	バッチ油タンク室	排水完了エリア	2018/3/26	T.P. 1.668	1回/月	2021/10/5	測定下限値以下	-	2021/9/9	測定下限値以下	-110	2021/9/7	T.P. 558	20	2021/9/9	-	T.P. 448	有(露出)	完了済	
21		2号機	スイッチギア室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/5	測定下限値以下	-	2021/9/7	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 448	有(露出)	完了済	
22		2号機	南西エリア	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/5	測定下限値以下	-	2021/9/7	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 448	有(露出)	完了済	
23		2号機	CD室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/5	測定下限値以下	-	2021/9/7	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 448	有(露出)	完了済	
24		2号機	消火ポンプ室(水位計設置箇所)	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/5	測定下限値以下	-	2021/9/7	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	2020/9/16	-	T.P. 448	有(露出)	完了済	
		2号機	消火ポンプ室(ポンプ設置箇所)	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/5	測定下限値以下	-	2021/9/7	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	2020/6/29	-	T.P. 448	無	完了済	
25		2号機	ディーゼル発電機(A)室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/9/7	測定下限値以下	-	2021/9/7	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 448	有(露出)	完了済	
26		2号機	電気油圧式制御装置室 ※5	建屋貯留水	-	-	-	2018/1/31	測定下限値以下	-	2018/1/31	測定下限値以下	-	-	-	-	-	-	T.P. 448	無	-	復水器エリアと連通性有※2
27		3号機	T/B地下階北東廊下 ※5	建屋貯留水	-	-	-	2017/12/25	測定下限値以下	-	2017/12/25	測定下限値以下	-	-	-	-	-	-	T.P. 463	無	-	復水器エリアと連通性有※2
28		3号機	南西エリア	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/6	測定下限値以下	-	2021/9/8	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 463	有(露出)	完了済	
29		3号機	CD室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/6	測定下限値以下	-	2021/9/8	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 463	有(露出)	完了済	
30		3号機	ディーゼル発電機(A)室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/6	測定下限値以下	-	2021/9/8	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 463	有(露出)	完了済	
31		3号機	ディーゼル発電機(B)室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/6	測定下限値以下	-	2021/9/8	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 463	有(露出)	完了済	
32		3号機	電気油圧式制御装置室	排水完了エリア	2018/2/2	T.P. 1.725	1回/月	2021/10/6	測定下限値以下	-	2021/9/8	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	2019/6/14	-	T.P. 463	無	完了済	
33		3号機	消火ポンプ室	排水完了エリア	2018/3/20	T.P. 1.644	1回/月	2021/10/6	T.P.493 mm	20	2021/9/10	測定下限値以下	-90	2021/9/8	T.P. 553	0	2021/9/10	-	T.P. 463	有(露出)	完了済	
34		3号機	バッチ油タンク室	排水完了エリア	2018/3/20	T.P. 1.665	1回/月	2021/10/6	測定下限値以下	-	2021/9/8	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	2020/10/6	-	T.P. 463	有(露出)	完了済	
35		3号機	C/Bエリア	建屋貯留水	-	-	1回/日	2021/10/7	T.P. -1,566	-	2021/9/9	T.P. -1,566	-	2021/8/6	T.P. -1,568	-	2020/10/2	-	T.P. -1,737	有	完了済	継続した水位上昇を確認。継続して排水する措置を要実施中。
36		4号機	C/B(バッテリー室)	排水完了エリア	2018/2/15	T.P. 1.683	1回/月	2021/10/7	測定下限値以下	-	2021/9/9	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	2018/1/24	-	T.P. 461	有(露出)	完了済	
37		4号機	C/B(電気品室)	排水完了エリア	2018/2/15	T.P. 1.636	1回/月	2021/10/7	測定下限値以下	-	2021/9/9	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	2018/10/23	-	T.P. 461	有(露出)	完了済	
38		4号機	バッチ油タンク室	排水完了エリア	2018/3/23	T.P. 1.622	1回/月	2021/10/14	測定下限値以下	-50	2021/10/7	T.P. 531	0	2021/9/9	T.P. 531	20	2020/10/14	-	T.P. 461	有(露出)	完了済	
39		4号機	M/Cエリア	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/7	測定下限値以下	-	2021/9/9	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 461	有(露出)	完了済	
40		4号機	南西エリア	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/7	測定下限値以下	-	2021/9/9	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 461	有(露出)	完了済	
41		4号機	ディーゼル発電機(A)室	排水完了エリア	2020/2/7	T.P. 1.400	1回/月	2021/10/7	測定下限値以下	-	2021/9/9	測定下限値以下	-	2021/8/16	測定下限値以下	-	-	-	T.P. 461	有(露出)	完了済	
42		4号機	電気油圧式制御装置室 ※5	建屋貯留水	-	-	-	2018/1/12	測定下限値以下	-	2018/1/12	測定下限値以下	-	-	-	-	-	-	T.P. 461	無	-	復水器エリアと連通性有※2

※1: 現状の滞留水水位より床面が低く、将来的な水位低下によって孤立すると想定されるエリアについては、運転上の制限(建屋滞留水<サブドレン水位)を満足する時期で調査を行い、区分けするように計画する。

※2: 2018/3/8, 2018/4/24 面談資料参照

※3: 1号機タービン建屋は、現在、床ドレンサンブ内で水位管理を行っているため、T.P.443として管理(2018/4/6面談資料参照)

※4: 連通のある復水器エリアの水位を記載

※5: 床面露出。中間地下階のため、再冠水の可能性は低い。

2021/10/7 0:00 時点の各建屋水位

建屋	1号機			2号機			3号機			4号機		
	R/B	Rw/B	T/B※6	R/B	Rw/B	T/B	R/B	Rw/B	T/B	R/B	Rw/B	T/B
滞留水の水位	T.P. -2.045	除去完了	除去完了	T.P. -2.035	除去完了	除去完了	T.P. -2.046	除去完了	除去完了	除去完了	除去完了	除去完了
周辺サブドレン設定値	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650	T.P. -650

※6: 1号機T/Bの最下階の床レベルはT.P.443

各建屋地下エリアの滞留水貯留状況

最終更新：2020/2/8
東京電力ホールディングス株式会社

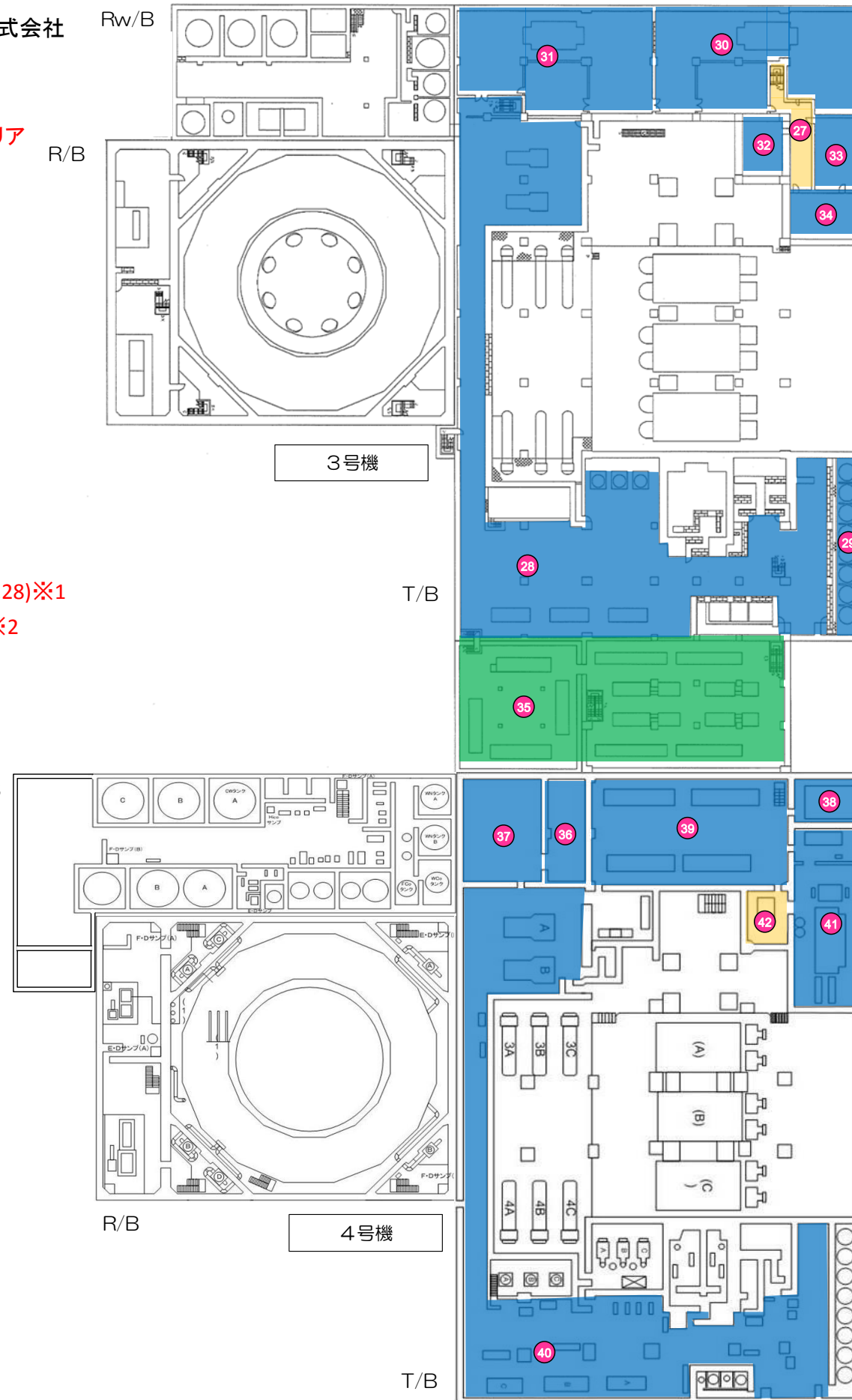
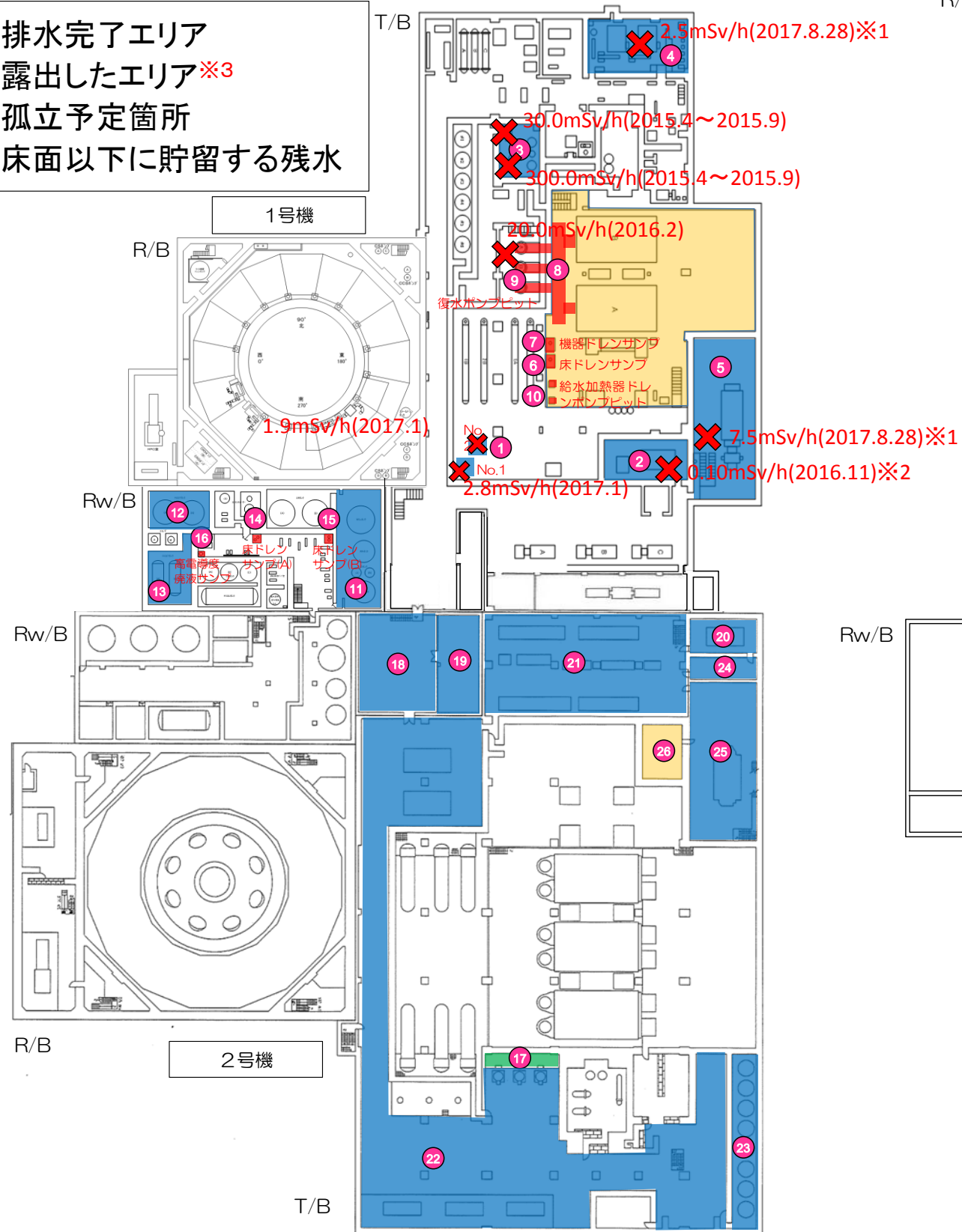
水位安定エリア等については線量測定が実施出来た場合、測定結果を記載している。

※1: 1階床面より3m程度挿入した箇所にて測定

※2: 作業エリアである1階床面で測定

※3: 孤立すると予想したエリアだが連通が確認されたため、建屋に滞留する滞留水のまま判断したエリア

- : 排水完了エリア
- : 露出したエリア※3
- : 孤立予定箇所
- : 床面以下に滞留する残水



構内散水量変更に伴う実施計画の変更について

2021年11月 5日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 概要

<前回の面談事項>

- 実施計画Ⅲ章3編（保安に係る補足説明）「2.2.3 放射性液体廃棄物等による線量評価」, 「2.2.4 線量評価のまとめ」の構内散水量^{※1}を「70,000kg/日^{※2}」⇒「80,000kg/日^{※2}」に実施計画変更申請することで, 5・6号機フランジ型タンク内包水の淡水化装置(以下,RO)による濃縮の完了時期を早めたいことについて面談を実施。

<今回の面談事項>

- 構内散水量を「80,000kg/日^{※2}」に変更することの妥当性。
- 現状の構内散水量「70,000kg/日^{※2}」でフランジ型タンク内包水のRO濃縮の処理が可能か。

※1 : 5・6号機滞留水処理済水を1年間継続して構内散水する水量の上限。

※2 : 次ページ以降, 構内散水量の単位を「kg」から「m³」に読み替える。

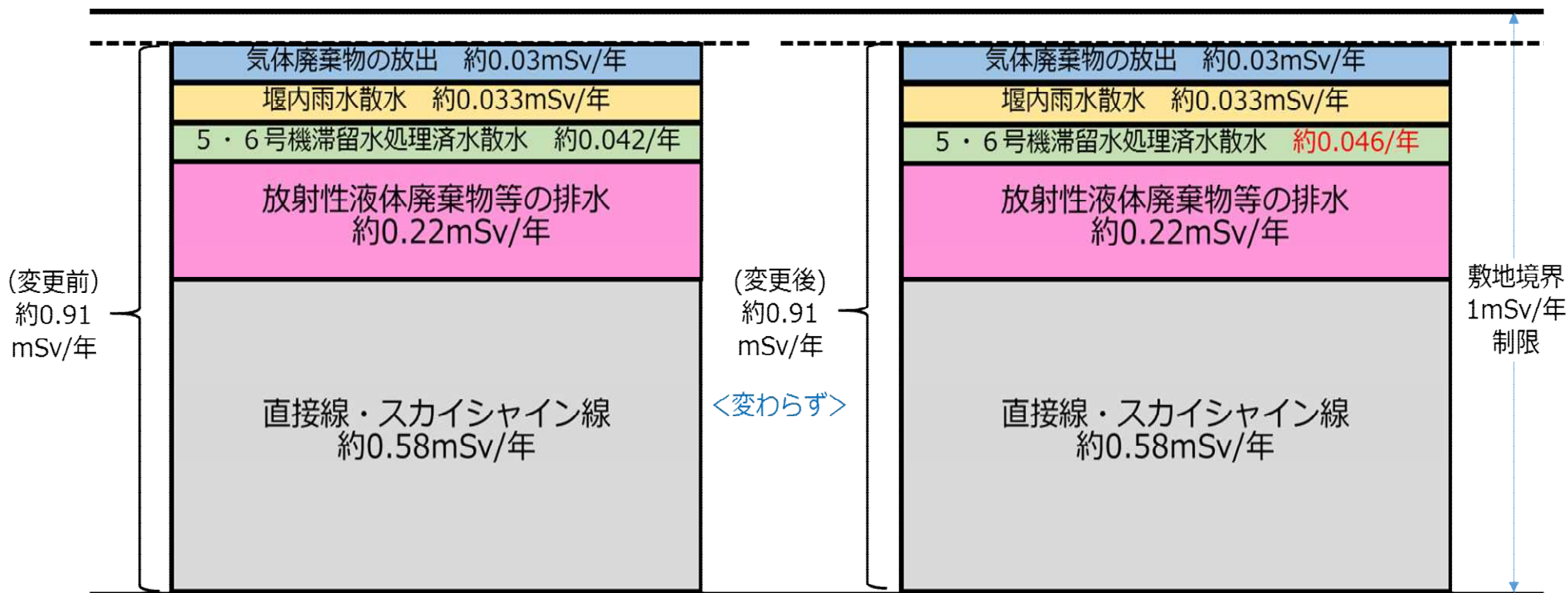
2. 構内散水量変更の妥当性（1 / 3）

<構内散水量変更の検討>

- 敷地境界1mSv/年制限を越えないことを指標に、他設備の敷地境界線量及び予備分との兼ね合いを考慮し調整を行い、変更後の散水量を80m³/日とした。

<評価結果>

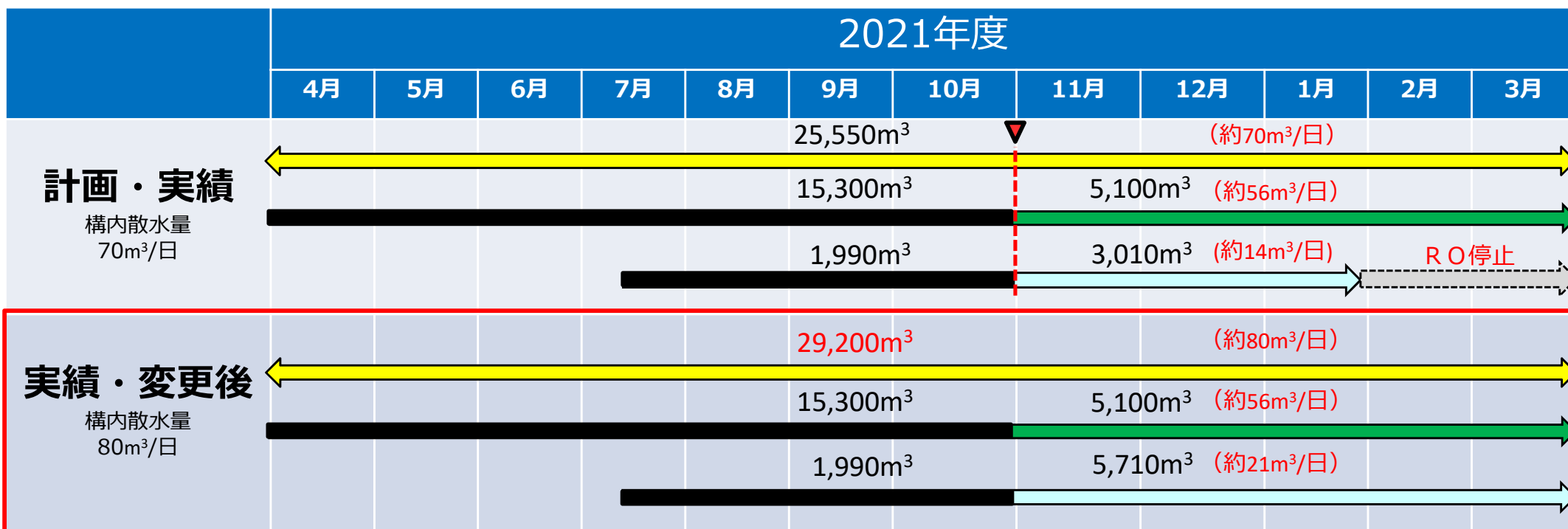
- 実施計画第Ⅲ章3編2.2.3 添付資料2「5・6号機滞留水処理済水の構内散水における被ばく評価」に記載のある評価手法に則り、散水量を「70m³/日」⇒「80m³/日」に変更した場合の敷地境界における一般公衆への実効線量を評価：5・6号機滞留水散水分が約0.042mSv/年から約0.046mSv/年に増加
⇒ 敷地境界の実効線量合計（評価値）は、変わらず約0.91mSv/年となり、1mSv/年を下回る。



2. 構内散水量変更の妥当性（2 / 3）

<実績による今後の見込み>

- 「5・6号T/B地下水処理他」, 「フランジ型タンクRO濃縮他」の処理水は2021年10月時点で「17,290m³」構内散水しており, 2021年度内に1年間継続して構内散水する水量は「約70m³/日」になり, 2022年1月にRO処理を停止する必要がある。
- 構内散水量を「70m³/日」⇒「80m³/日」に実施計画変更申請手続きを行うことで, フランジ型タンク内包水RO濃縮を継続的に実施したい。



<凡例>  : 構内散水量  : 5・6号T/B地下水処理他  : フランジ型タンクRO濃縮他  : 実績  : RO停止

2. 構内散水量変更の妥当性（3 / 3）

<2021年度の構内散水量内訳>

- 5・6号機T / B地下水処理他（約56m³/日）
 - a. 5・6号機T / B滞留水処理による散水量：18,000m³
1,500m³/月 × 12ヶ月 ※1
 - +
 - b. 5・6号機海水トレンチ内包水処理による構内散水量：2,400m³

 - フランジ型タンクRO濃縮他（約21m³/日）※2
 - a. H・I・Jタンク内包水RO濃縮による散水量：3,500m³（約9.6m³/日）
H・I・Jタンク内包水量9,300m³ - RO濃縮後水量5,800m³ = 3,500m³
 - +
 - b. Kタンク内包水RO濃縮による散水量：2,500m³（約6.9m³/日）
Kタンク内包水量5,000m³ - RO濃縮後水量2,500m³ = 2,500m³
 - +
 - c. Nタンク内包水処理による散水量：1,700m³（約4.7m³/日）
Nタンク内包水量2,000m³ - 内包水処理後水量300m³ = 1,700m³
- 「5・6号機T / B地下水処理他 a. b」 + 「フランジ型タンクRO濃縮他 a. b. c」
 = 【見込み】28,100m³(約77m³/日) ≒ 【変更後】29,200m³（80m³/日）

※1：計画と現在の地下水流入量を確認して見込みを算出。

※2：構内散水量が70m³/日の場合は「約5,000m³（約14m³/日）」散水したら、2021年度のフランジタンク内包水RO濃縮を停止する。

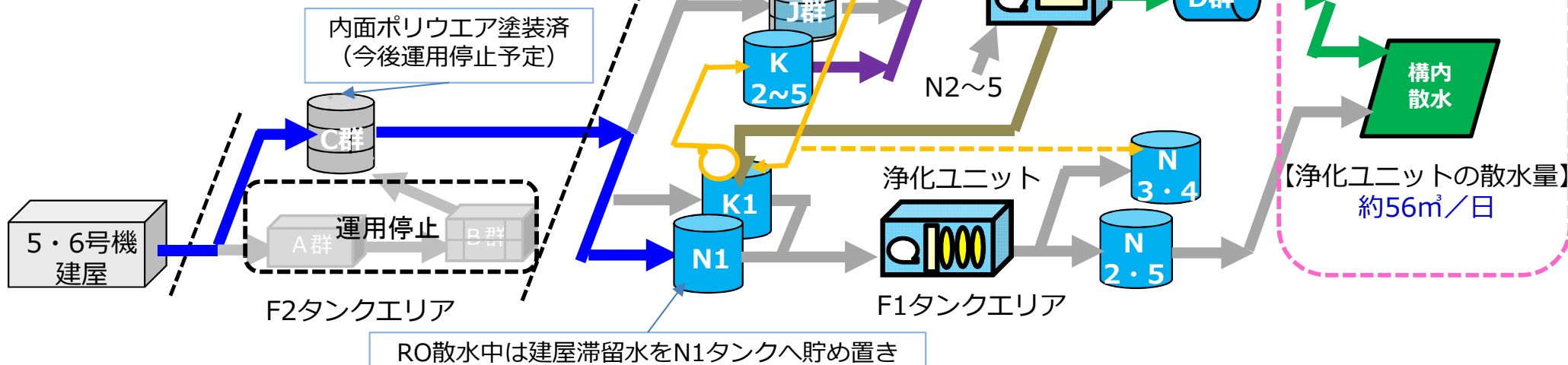
参考：RO濃縮・構内散水の概要

<Fタンクエリア位置図>



<H・I・J群のRO濃縮，構内散水>

仮設ポンプにて，タンクの上澄みから処理し，水位低下に併せてポンプ位置を下げていく

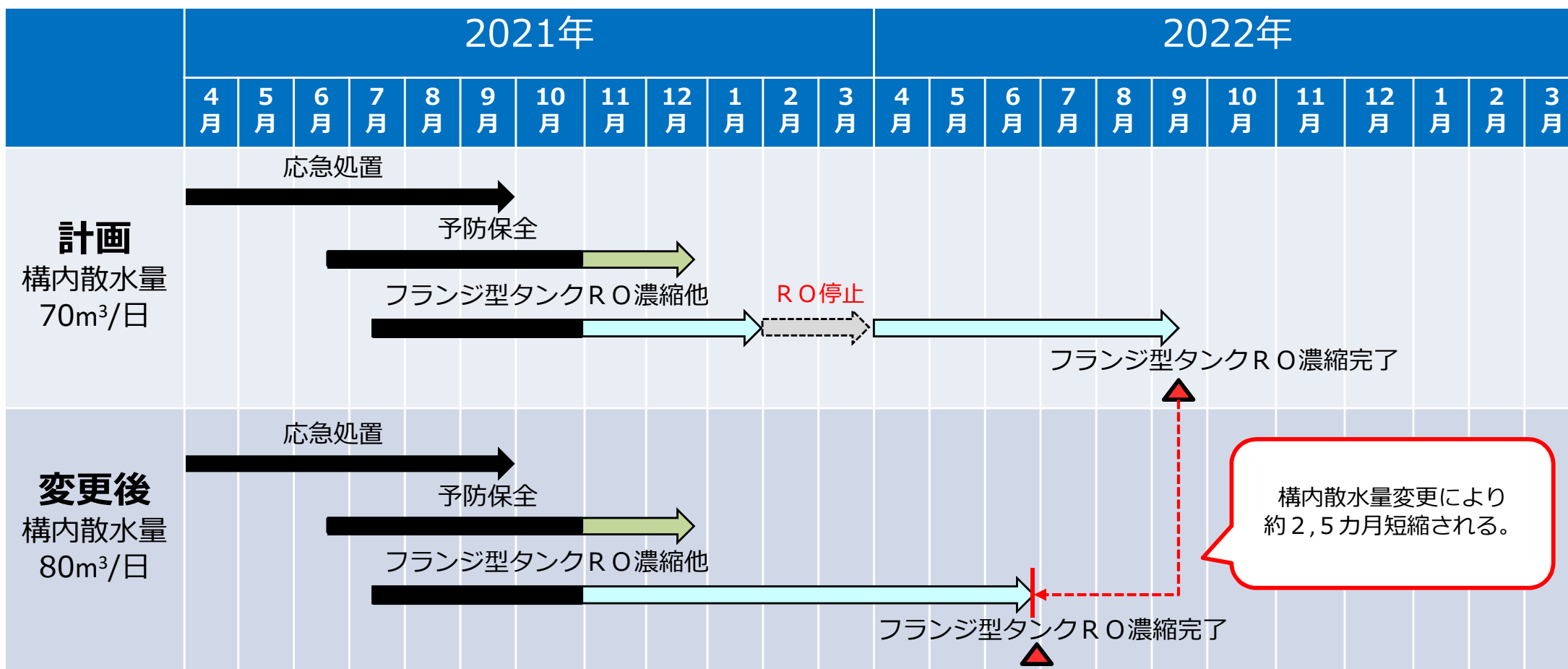


<凡例>

- : 滞留水 ■ : 処理水 ■ : 停止中 ■ : 戻り水 (RO濃縮水)
- : H・I・J群の内包水 ○ : 仮設ポンプ ■ : 仮設ホース (RO処理時) ■ : 仮設ホース (残水移送時)
- ■ : フランジ型タンク ■ ■ : 溶接タンク

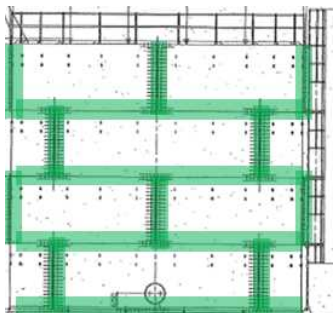
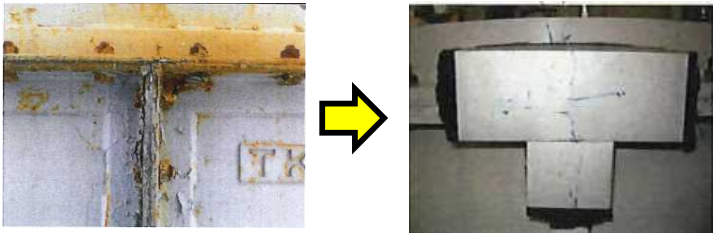
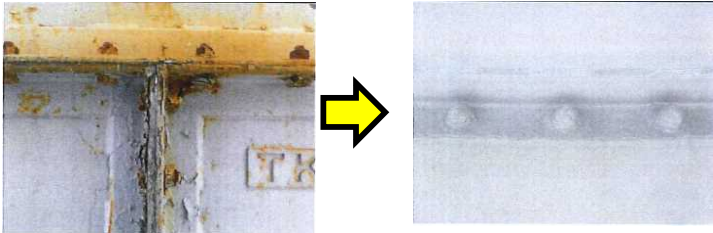
3. フランジタンク内包水RO濃縮の工程について


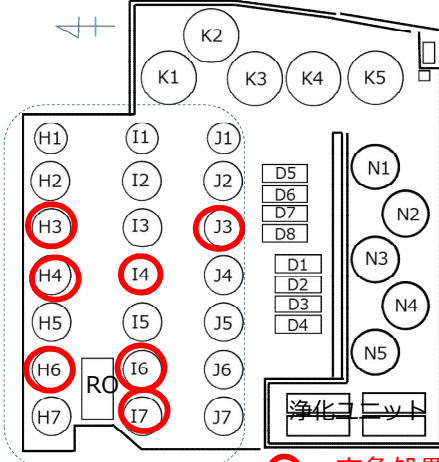
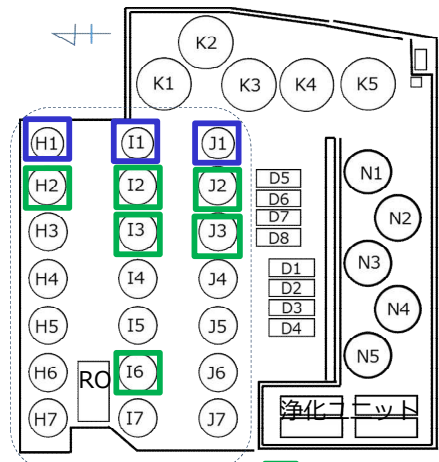
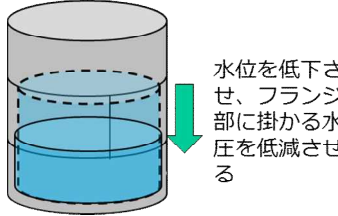
- 構内散水量「70m³/日」により，5・6号機フランジ型タンクRO濃縮を進めることは出来るが，下記の理由により，構内散水量「80m³/日」への実施計画変更申請手続きを進めたい。
 - a. 震災直後に設置したフランジ型タンクで経年劣化が進んでいる。
 - b. 応急処置および予防保全によるフランジ継ぎ手部の補修を行うが，F1タンクエリアのフランジ型タンクは2021年2月13日同等の地震に対して，漏えいリスクを抱えている。



参考：Fタンクエリア_フランジ型タンク漏えい対策について

項目	対応内容	対象箇所	完了予定時期
応急処置 (対応済)	・漏えい箇所より、タンク水位を下げ、止水材にて修理中	H・I・J群の漏えい箇所	2021年9月
予防保全	・フランジ継手部はパテ補修及び塗装を施工 ・ボルト・ナット部はコーキング処理、塗装を施工	H・I・J群	2021年12月

フランジタンク外形図	状況写真	
 <p>■: 予防保全の施工範囲</p>	<p>応急処置 (漏えい箇所)</p>  <p>処置前 (例) 処置後 (例)</p>	<p>予防保全</p>  <p>予防保全前 (例) 予防保全後 (例)</p>

Fタンクエリア位置図	F1タンクエリア(応急処置)	F1タンクエリア (予防保全)
	 <p>・漏えい発生したタンク7基の応急処置を完了</p> <p>○: 応急処置完了</p>	 <p>・H・I・J群の予防保全を実施中 ・並行して水位低下作業を行う</p> <p>■: 実施中 □: 完了</p>  <p>水位を低下させ、フランジ部に掛かる水圧を低減させる</p>

以下，前回面談資料（抜粋）

構内散水量変更に伴う実施計画の変更について

2021年10月15日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 実施計画の変更及び背景

構内散水量変更に伴い、実施計画Ⅲの以下の項目について変更する。

<変更箇所>

- 実施計画Ⅲ 第3編（保安に係る補足説明）
 - 2.2.3 放射性液体廃棄物等による線量評価
 - 2.2.4 線量評価のまとめ

<背景>

- 経年劣化および地震(2021年2月13日等)による加振を受け、F1タンクエリアのフランジ型タンクH・I・J群の一部タンクのフランジ継ぎ手部から漏えいが発生した。
- 中長期対策としてフランジ型タンクH・I・J群の内包水を空にする。
空にする方法としては、淡水化装置(以下、RO)による濃縮処理を行い、処理水を構内散水し
構内散水出来ないRO戻り水（濃縮水）は溶接タンクへ移送する。
- フランジ型タンク内包水のRO濃縮の完了時期を早めるため、構内散水量を「70,000kg/日」から「80,000kg/日」へ変更する。それに伴い、敷地境界の実効線量評価を行った上で、実施計画変更申請を行う。

参考 1. 実施計画変更（案）概略（1 / 4）

（実施計画Ⅲ 第3編（保安に係る補足説明）

2 放射性廃棄物等の管理に関する補足説明

2.2 線量評価

2.2.3 放射性液体廃棄物等による線量評価

項目	評価箇所	変更前	変更後
2.2.3.2 各系統における線量評価	(3)散水による線量評価	γ線に起因する敷地境界の実効線量は $4.2 \times 10^{-2} \text{mSv/年}$ である。	γ線に起因する敷地境界の実効線量は $4.6 \times 10^{-2} \text{mSv/年}$ である。

2.2.3.3 添付資料

項目	評価箇所	変更前	変更後
添付資料－2 5・6号機滞留水処理済水の構内散水における被ばく評価	(2)被ばく評価について <計算条件>	散水量：1年間継続して $70,000 \text{kg/日}$ を散水したと仮定	散水量：1年間継続して $80,000 \text{kg/日}$ を散水したと仮定
1. 実際の処理水（浄化試験結果）を散水した場合の評価	a.作業員への実効線量 ①地面に沈着した放射性物質からのγ線に起因する実効線量	γ線に起因する実効線量は年間約 $9.8 \times 10^{-4} \text{mSv/年}$ である。	γ線に起因する実効線量は年間約 $1.1 \times 10^{-3} \text{mSv/年}$ である。
1. 1浄化ユニット及び淡水化装置または浄化装置及び淡水化装置にて処理した水	b.敷地境界における一般公衆への実効線量 ①地面に沈着した放射性物質からのγ線に起因する実効線量	γ線に起因する実効線量は年間約 $4.3 \times 10^{-3} \text{mSv/年}$ である。	γ線に起因する実効線量は年間約 $4.9 \times 10^{-3} \text{mSv/年}$ である。

参考 1. 実施計画変更（案）概略（2 / 4）

項目	評価箇所	変更前	変更後
1. 2 浄化ユニットにて処理した水	(2)被ばく評価について <計算条件>	散水量：1年間継続して70,000kg/日を散水したと仮定	散水量：1年間継続して80,000kg/日を散水したと仮定
	a.作業員への実効線量 ①地面に沈着した放射性物質からのγ線に起因する実効線量	γ線に起因する実効線量は年間約 2.6×10^{-6} mSv/年である。	γ線に起因する実効線量は年間約 2.9×10^{-6} mSv/年である。
	b.敷地境界における一般公衆への実効線量 ①地面に沈着した放射性物質からのγ線に起因する実効線量	γ線に起因する実効線量は年間約 1.1×10^{-5} mSv/年である。	γ線に起因する実効線量は年間約 1.3×10^{-5} mSv/年である。
2. 運用範囲において理論上とりうる放射能濃度を仮定した場合の被ばく評価	a.作業員への実効線量 ①地面に沈着した放射性物質からのγ線に起因する実効線量	γ線に起因する敷地境界の実効線量は 8.4×10^{-3} mSv/年である。	γ線に起因する敷地境界の実効線量は 9.6×10^{-3} mSv/年である。
2. 1 浄化ユニット及び淡水化装置または浄化装置及び淡水化装置にて処理した水	b.敷地境界における一般公衆への実効線量 ①地面に沈着した放射性物質からのγ線に起因する実効線量	γ線に起因する敷地境界の実効線量は 3.7×10^{-2} mSv/年である。	γ線に起因する敷地境界の実効線量は 4.2×10^{-2} mSv/年である。

参考 1. 実施計画変更（案）概略（3 / 4）

項目	評価箇所	変更前	変更後
2. 2 浄化ユニットにて処理した水	<計算条件> ・放射濃度 ①地面に沈着した放射性物質からのγ線に起因する実効線量	Cs-134・・・ <u>8</u> Bq/L Cs-137・・・ <u>8</u> Bq/L	Cs-134・・・ <u>7.6</u> Bq/L Cs-137・・・ <u>7.6</u> Bq/L
	a. 作業員への実効線量 ①地面に沈着した放射性物質からのγ線に起因する実効線量	γ線に起因する実効線量は年間約 <u>9.6×10⁻³</u> mSv/年である。	γ線に起因する実効線量は年間約 <u>1.0×10⁻²</u> mSv/年である。
	②H-3の吸込摂取及び地面に沈着したCo-60からのγ線に起因する実効線量	年間約 <u>8.4×10⁻³</u> mSv/年である。	年間約 <u>8.5×10⁻³</u> mSv/年である。
	b. 敷地境界における一般公衆への実効線量 ①地面に沈着した放射性物質からのγ線に起因する実効線量	γ線に起因する実効線量は年間約 <u>4.2×10⁻²</u> mSv/年である。	γ線に起因する実効線量は年間約 <u>4.6×10⁻²</u> mSv/年である。
2. 3 5・6号機滞留水処理済水の構内散水における敷地境界の実効線量	前記のとおり，浄化装置，浄化ユニット及び淡水化装置にて処理した水の散水による敷地境界の実効線量	年間約 <u>3.7×10⁻²</u> mSv，浄化ユニットにて処理した水の散水による敷地境界の実効線量は年間約 <u>4.2×10⁻²</u> mSvと評価した。 これらの評価は，1日当たりの散水量（ <u>70,000</u> kg/日）に対して，どちらか一方の処理設備で全ての処理を行った場合を想定している。	年間約 <u>4.2×10⁻²</u> mSv，浄化ユニットにて処理した水の散水による敷地境界の実効線量は年間約 <u>4.6×10⁻²</u> mSvと評価した。 これらの評価は，1日当たりの散水量（ <u>80,000</u> kg/日）に対して，どちらか一方の処理設備で全ての処理を行った場合を想定している。

参考 1. 実施計画変更（案）概略（4 / 4）

項目	評価箇所	変更前	変更後
2. 3 5・6号機滞留水処理済水の構内散水における敷地境界の実効線量	前記のとおり，浄化装置，浄化ユニット及び淡水化装置にて処理した水の散水による敷地境界の実効線量	5・6号機滞留水処理済水の構内散水における敷地境界の実効線量は保守的に全て浄化ユニットにて処理を行った場合の評価とし，年間 4.2×10^{-2} mSvとする。	5・6号機滞留水処理済水の構内散水における敷地境界の実効線量は保守的に全て浄化ユニットにて処理を行った場合の評価とし，年間 4.6×10^{-2} mSvとする。

（実施計画Ⅲ 第3編（保安に係る補足説明）

2 放射性廃棄物等の管理に関する補足説明

2.2 線量評価

項目	評価箇所	変更前	変更後
2.2.4 線量評価のまとめ	現状の設備の運用	5・6号機滞留水の処理済水の地表に沈着した放射性物質からのγ線に起因する実効線量は約 4.2×10^{-2} mSv/年となり合計約0.91mSv/年となる ^{注)} 。 注) 四捨五入した数値を記載しているため，合算値が合計と合わない場合がある。	5・6号機滞留水の処理済水の地表に沈着した放射性物質からのγ線に起因する実効線量は約 4.6×10^{-2} mSv/年となり合計約0.91mSv/年となる ^{注)} 。 注) 四捨五入した数値を記載しているため，合算値が合計と合わない場合がある。

陸側遮水壁測温管150-7Sの温度上昇について

2021年10月28日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

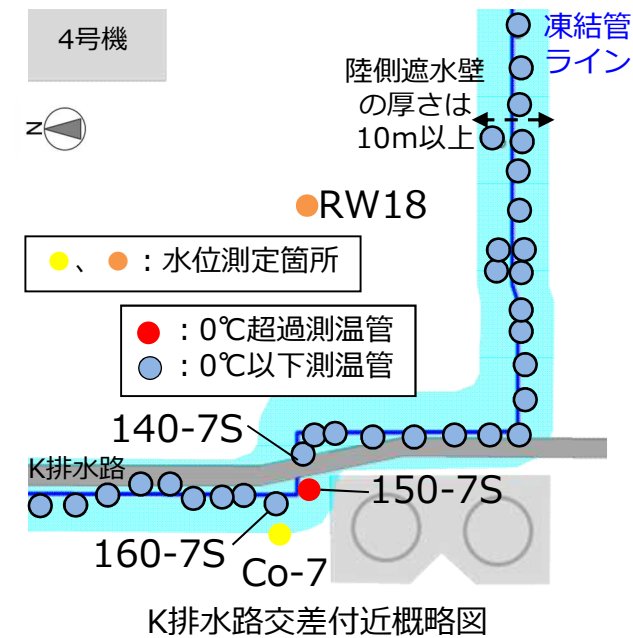
1. 概要

- 陸側遮水壁の維持管理については、測温管による地表・地中温度を参考に監視している。

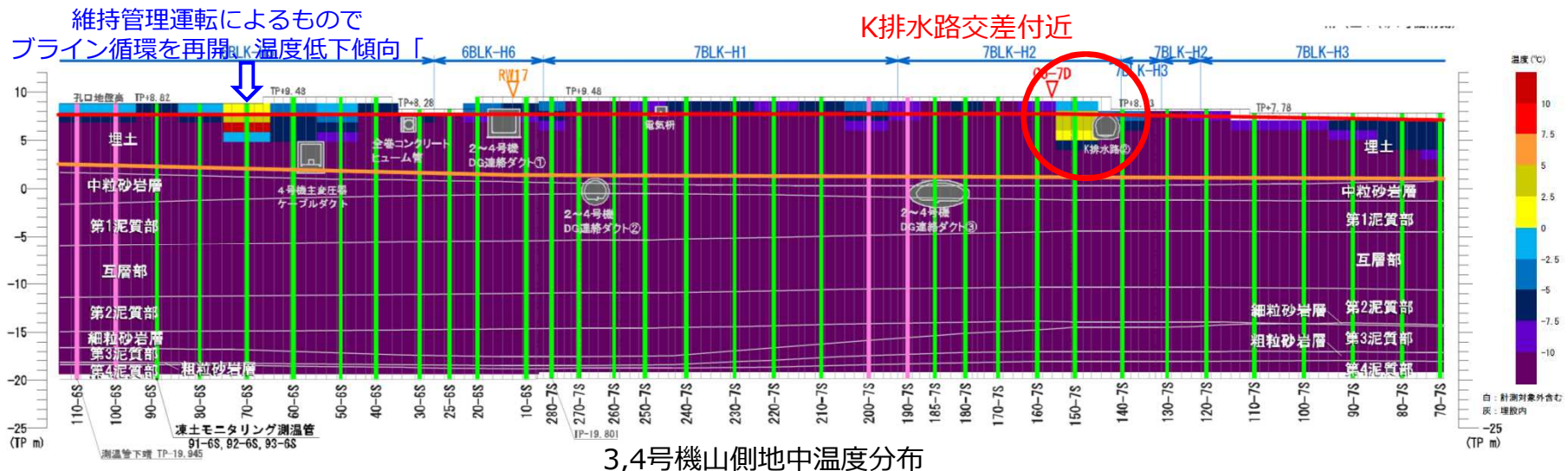
(図中↓箇所など夏季に温度上昇が確認される)

- 10月13日に、K排水路交差付近（下流部）の測温管150-7Sにて、地中に3m（地表下1.0m~4.0m付近）の区間で局所的に0℃を超過している状態が継続されていることを確認した（地表部は約0℃を確認）。

- 地下水位に変化は無く、内外水位差は確保されていることから、陸側遮水壁の遮水機能に影響はなし（P 3 参照）。

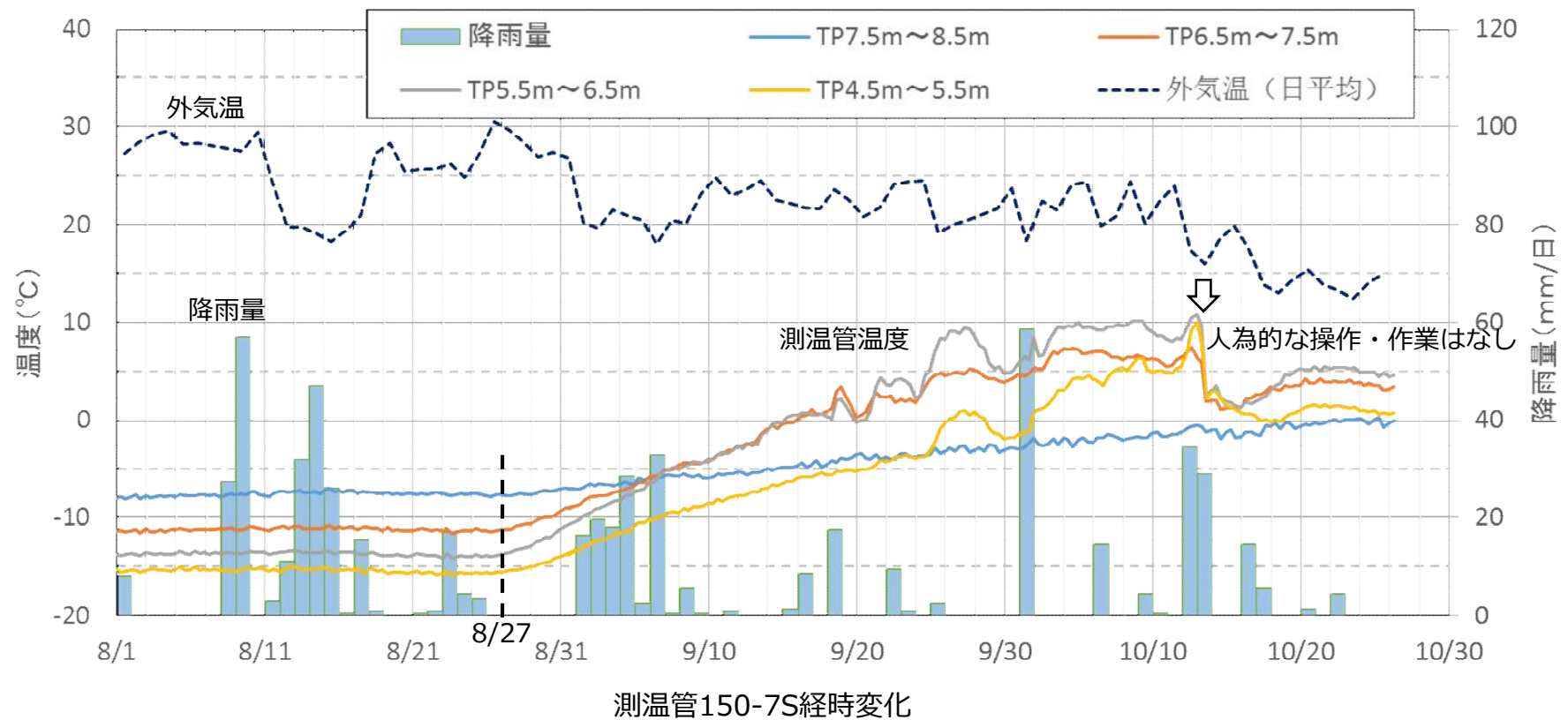


K排水路交差付近概略図



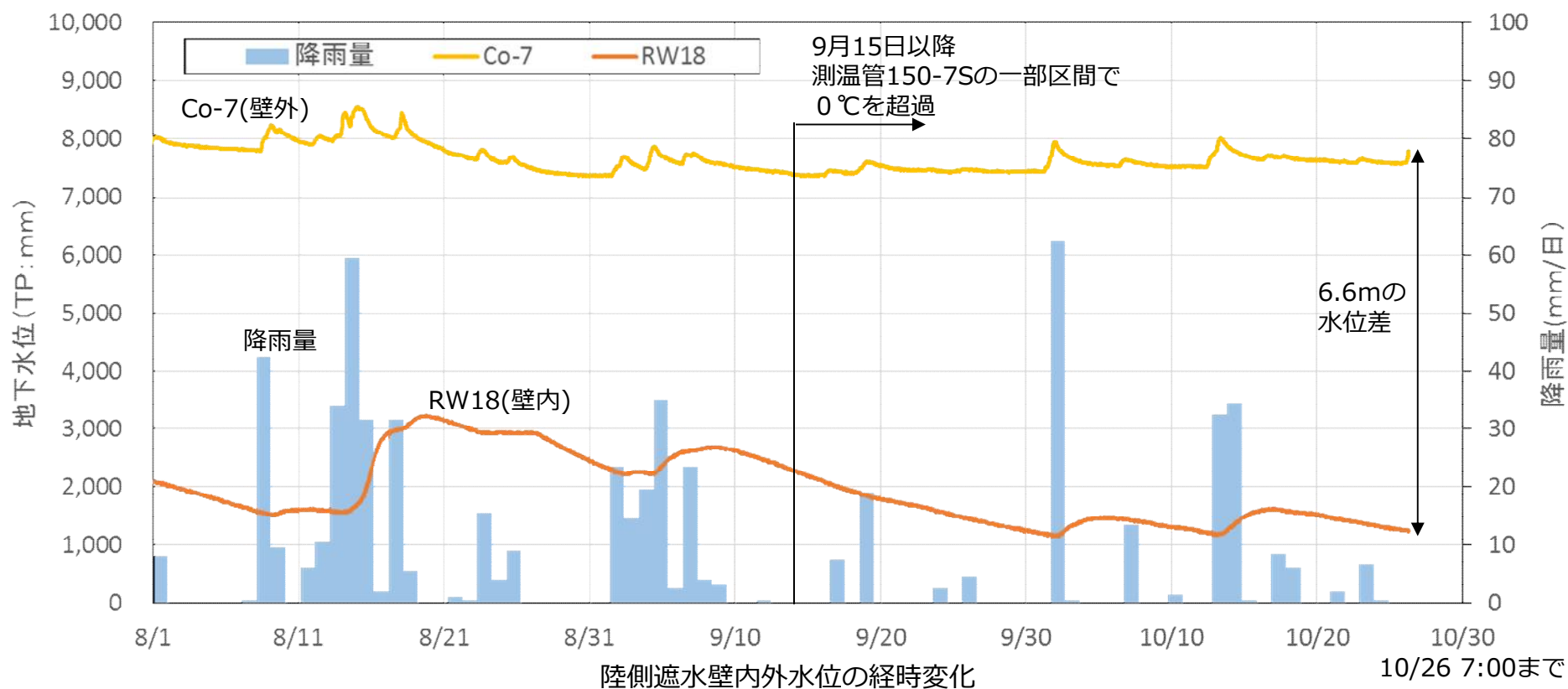
3,4号機山側地中温度分布

2. 測温管150-7Sの温度変化



- 150-7Sの温度変化は外気温や降雨によらず8月27日より温度上昇が継続している。
- T.P.+4.5m～T.P.+7.5mの範囲では、地表部（約0℃ 薄青色）よりも温度が高い現象が発生しており、最も温度が高いのはT.P.+5.5m～T.P.+6.5m（灰色）、地表面から深さ2.5mから3.5mの場所である。

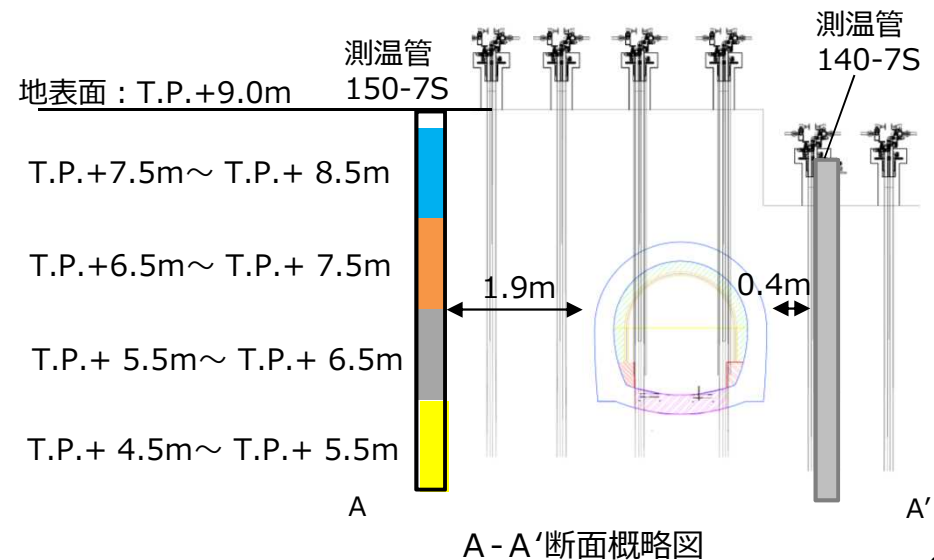
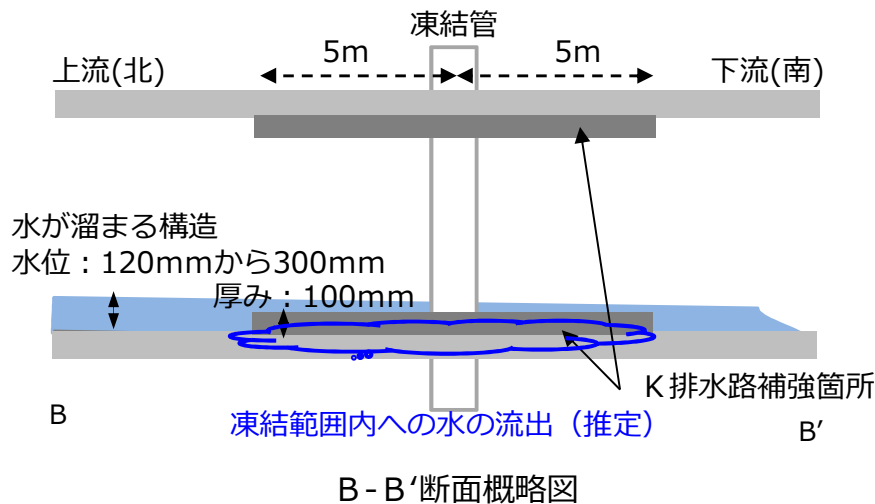
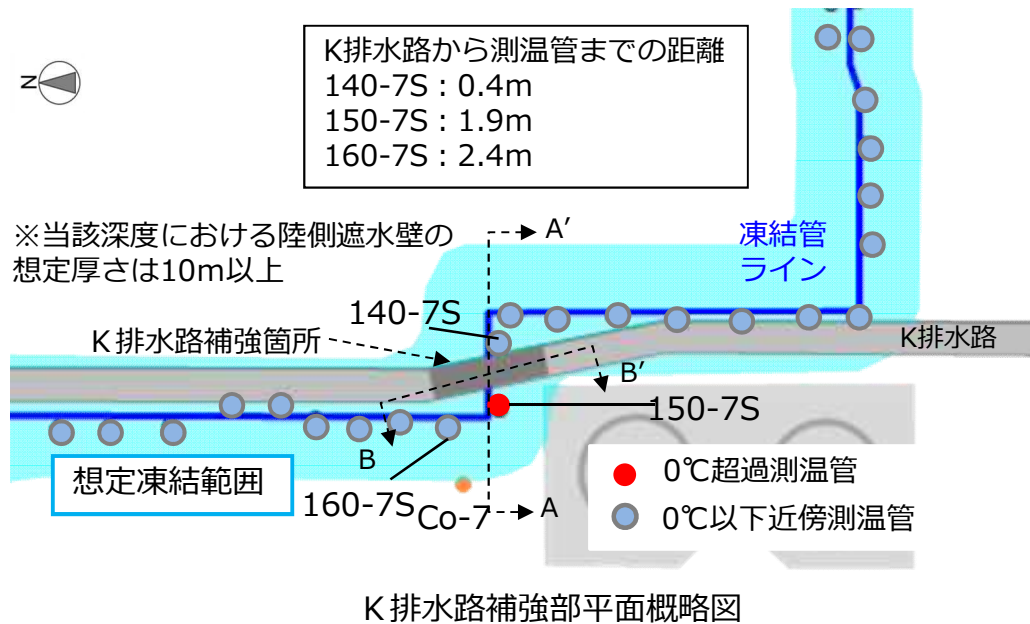
3. 陸側遮水壁内外水位差と降雨量の経時変化



- 陸側遮水壁内側の水位は、地中温度の変動によらず降雨により一時的に上昇し、サブドレンの汲み上げにより水位は低下するという変動をしている。
- 測温管150-7Sの一部区間で0℃以上となった9月15日以降も陸側遮水壁内の水位は低下し、10月26日時点で内外水位差は6.6mを確保していることから、陸側遮水壁の全体的な遮水性は継続していると評価される。

4. 温度上昇の原因推定

- K排水路では、陸側遮水壁との交差部において凍結による膨張対策として、補強箇所が存在する。
- 当該補強箇所内において、クラックなどが発生し、凍結範囲に水が流出している可能性がある」と推定している（K排水路内の水面より上の目視可能範囲では、明らかな損傷は見られない）。

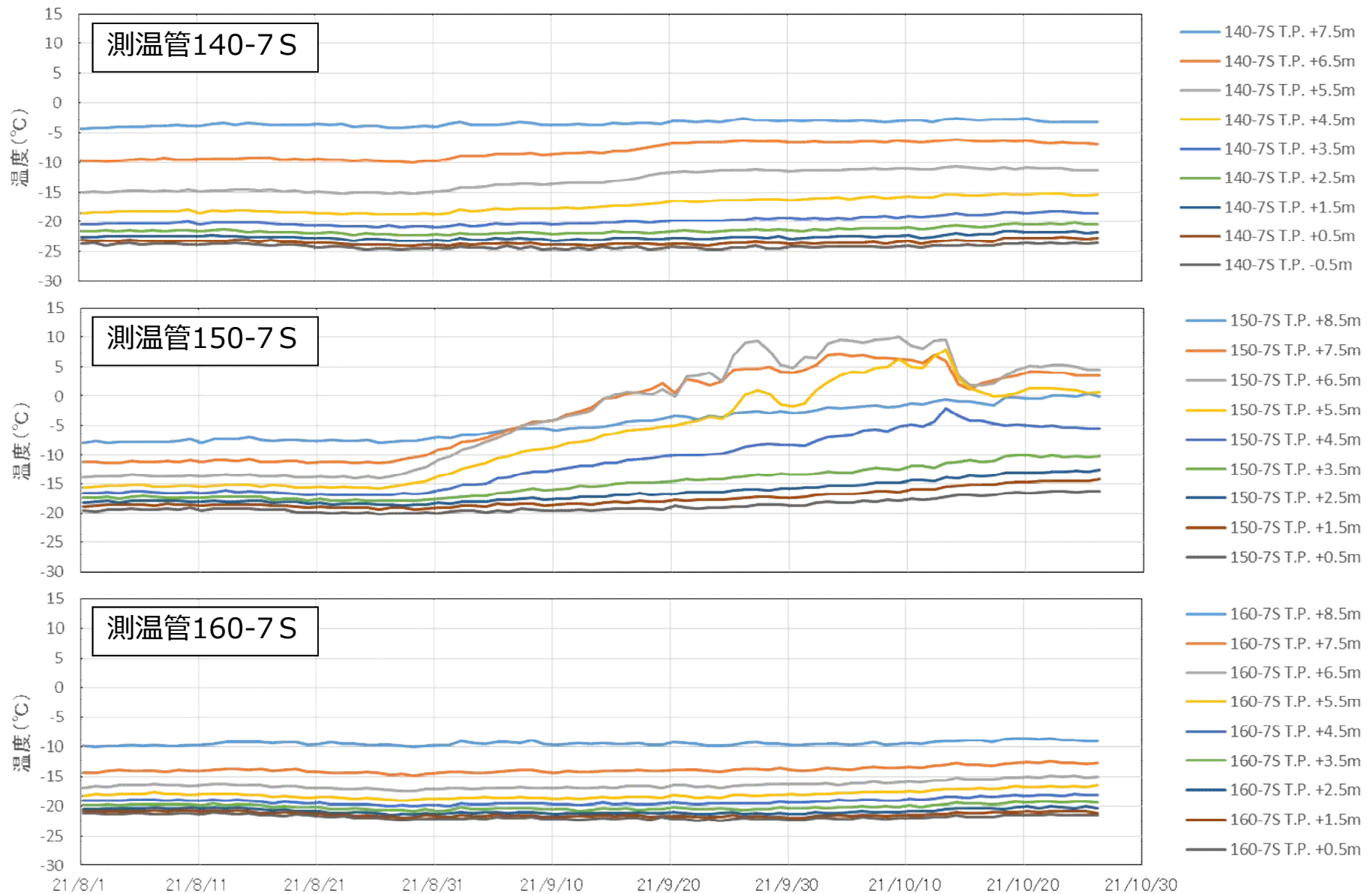


5. 推定原因と今後の対応について

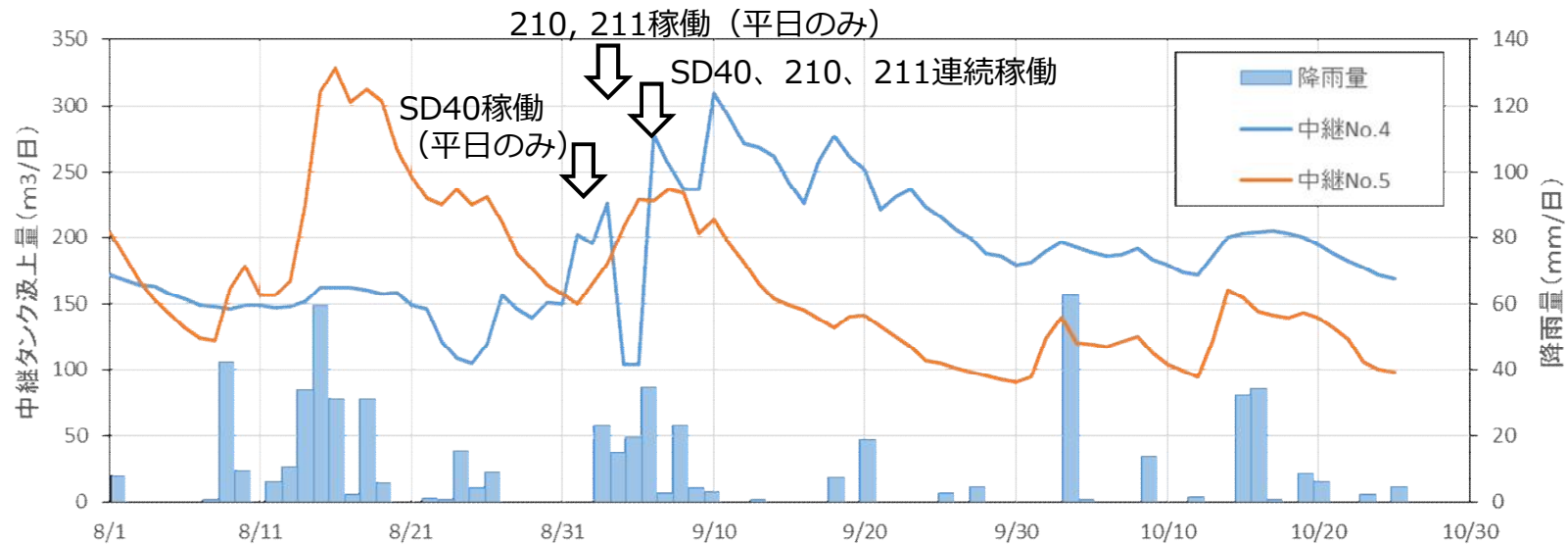
設備	推定原因	対応	対応結果	今後の対応
測温管	内部に水侵入	目視点検により確認	測温管頭部の蓋を開口し内部を確認し、水が浸入していないことを確認した	—
	内部充填剤減少	充填剤を補充	充填剤を補充したが、充填剤は減少していないことを確認した	—
	温度計損傷	測温管内部に温度計を挿入し計測値を比較	測温管と挿入した温度計の計測値はほぼ同値であり、地表下の1.0m～4.0mの範囲で温度が高いことを確認した	—
凍結管	エア溜まり発生	エア抜きバルブを操作しエア抜き	エア溜まりが発生していないことを確認した	—
	内部充填剤減少	充填剤を補充	充填剤を補充したが、充填剤は減少していないことを確認した	—
K排水路	クラック等の隙間が発生	クラック等の隙間を補修	目視点検では内部の変状やクラック等は確認されない ただし、流水がある状態での目視点検であり、十分な確認が出来たとは言えない	11月第1週に当該区間をドライアップし、目視による詳細調査、クラック等の補修を実施する予定

* 150-7Sの陸側遮水壁より内側（建屋側）に関しては測温管が設置されていないため、地中温度の計測を検討

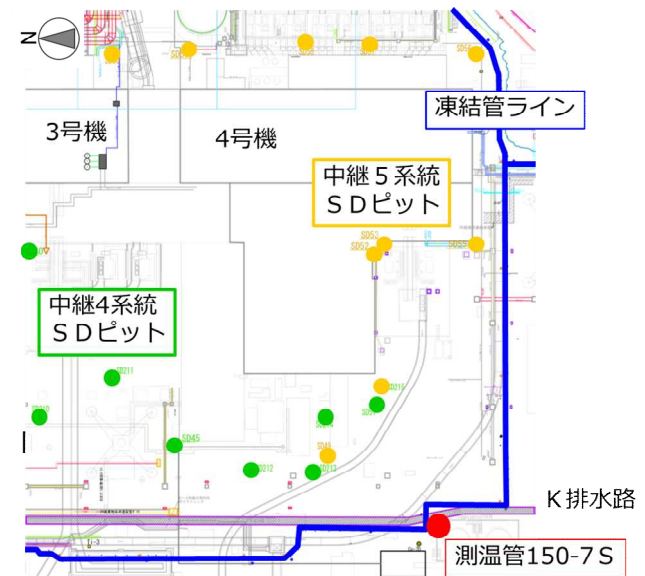
参考) 測温管140-7S、150-7S、160-7Sの温度経時変化 (表層抜粋) **TEPCO**



参考) サブドレンNo.4, No.5中継タンクの汲上量と降雨量の関係



- 温度上昇箇所至近の汲上量は降雨量及びSD40等の稼働に伴い変動しているが、降雨が少なくなってきた事から徐々に減少傾向を示している。
- 現状では測温管150-7Sの温度上昇に伴い汲上量が上昇していることは明瞭では無い為ため、継続監視する。



3,4号機山側平面図

福島第一原子力発電所 陸側遮水壁測温管150-7Sの温度上昇に伴う調査計画について

< 参 考 資 料 >
2021年11月1日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 陸側遮水壁の維持管理については、測温管による地表・地中温度を参考に監視しておりますが、10月13日に、K排水路交差付近（下流部）の測温管150-7Sにて、地中に3m（地表下1.0m～4.0m付近）の区間で局所的に0℃を超過している状態が継続されていることを確認しました。
- 地下水位に変化は無く、内外水位差は確保されていることから、陸側遮水壁の遮水機能に影響はないと評価しております。
- K排水路では、陸側遮水壁との交差部に、凍結による膨張対策として、補強箇所が存在します。
- 当該補強箇所内において、クラックなどが発生し、凍結範囲に水が流出している可能性があるかと推定しております。

<[2021年10月28日 お知らせ済み](#)>

- 11月第1週に当該区間をドライアップし、目視による詳細調査、クラック等の補修を実施する予定です。
- 目視調査については、11月2日より開始する予定です。

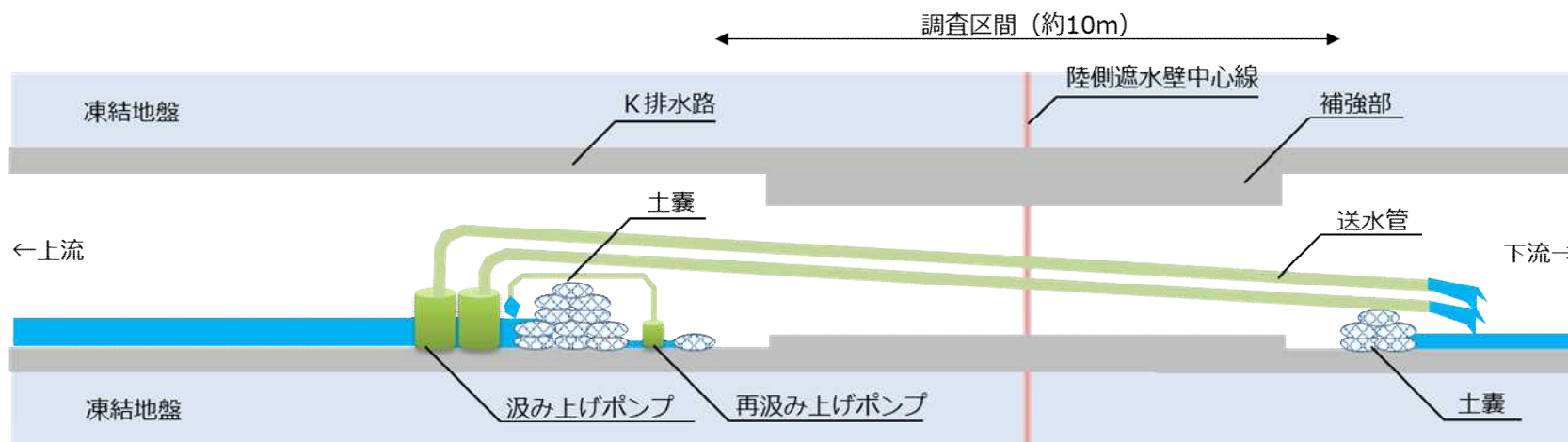


図1 K排水路内部の調査計画概要図

項目	第1週 (補強部約10m)	第2～4週 (温度変化確認期間)	第5週以降
	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライアップ後、目視調査によりクラック等からの水の流出入がないかを確認する。 ・調査期間中の測温管温度に注視し、変化の兆候を捉える。 		
ドライアップ	11月1日		※1：第1～4週の調査結果、測温管温度変化を踏まえ地表部からの調査も含めて追加調査を検討する
目視による詳細調査			
クラック補修			
測温管温度確認			

※2：降雨等により調査期間延長の可能性はある。

図2 K排水路内部の調査計画工程表